

学報

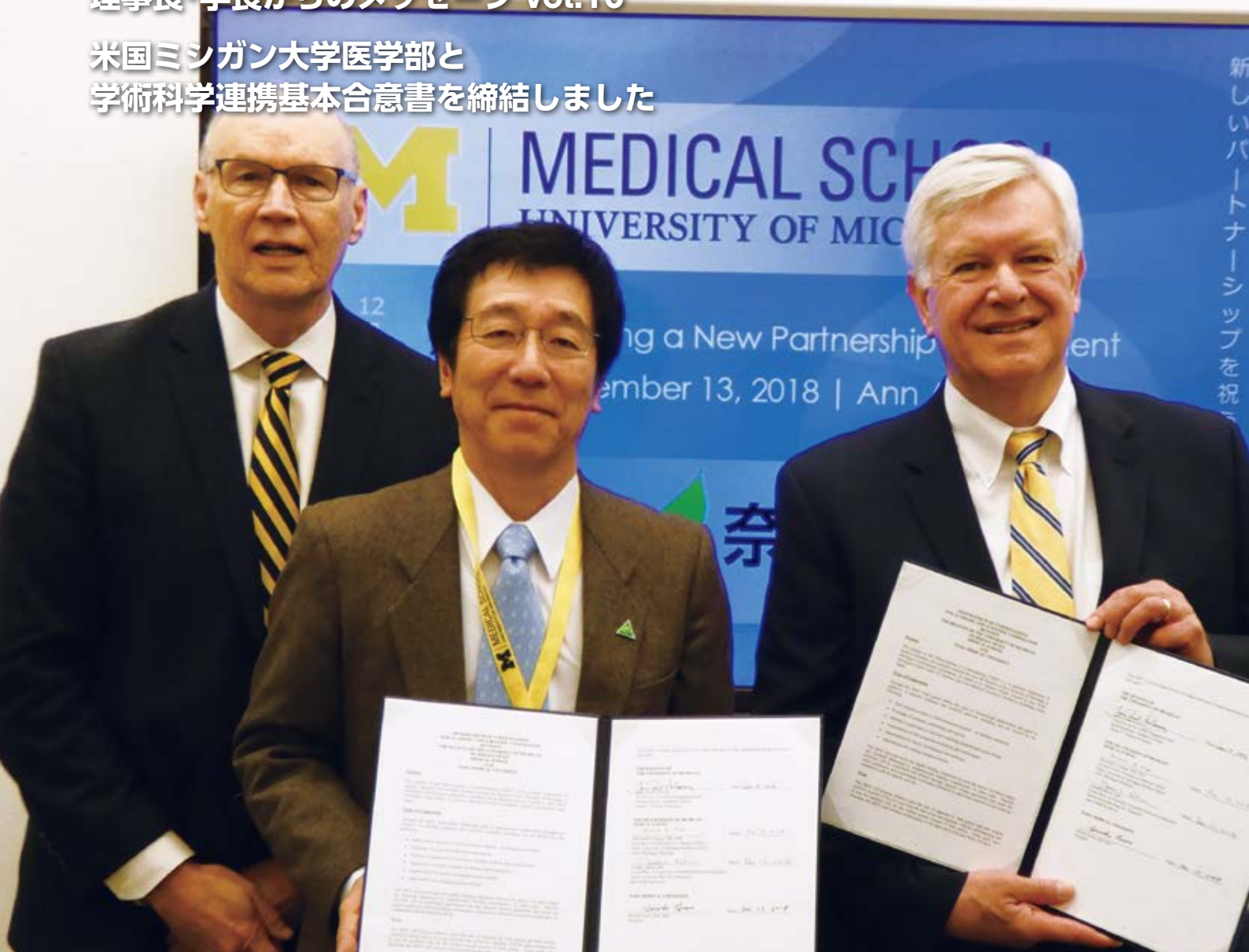
NARA MEDICAL UNIVERSITY

vol. **67** 2019
February

Special Feature

理事長・学長からのメッセージ vol.10

米国ミシガン大学医学部と
学術科学連携基本合意書を締結しました



Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.10	3
米国ミシガン大学医学部と学術科学連携基本合意書を締結しました	4
研究紹介	5
MBT 研究所だより	6
図書館だより	7
未来への飛躍基金だより	8
緩和ケアセンター・がん看護外来の紹介	8

Campus News

シーズ集を発行しました	9
株式会社タカトリ内に MBT 研究所分室を開設しました	9
駐日ベナン共和国大使が本学を訪問されました	9
BioJapan2018に出展しました	9
第3回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	10
日経 xTECH EXPO2018・デジタルヘルス DAYSに出展しました	10
平成30年度白樺生祭を開催しました	10
「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証開始について	11
特別共同研究助成事業研究成果報告会を開催しました	11
訪問看護実習について	11
奈良県立医科大学剣道部OBチーム(寧剣会)が奈良県代表として第67回全国青年剣道大会に出場しました	11
同志社女子大学と共催で院内コンサートを開催しました	12
FD・SD講演会を開催しました	12
くすりの町の漢方マルシェに出展しました	12
組換えDNA 実験安全委員会講演会を開催しました	13
奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けたセミナーを開催しました	13
MBT オープンミーティングを開催しました	14
今井町家めぐりへの協力	14
北海道総合研究調査会住まいのイノベーション研究会が来学	14
医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました	14
イノベーションストリーム KANSAI のシンポジウムに参加しました	15
就任のご挨拶	15

Winner Report

第4回心筋症研究会で Young Investigator Award 優秀賞を受賞しました	16
第2回日本循環器学会基礎研究フォーラムで Grant Award を受賞しました	16
日本消化器病学会近畿支部第109回例会で専修医奨励賞を受賞しました	16
第33回日本整形外科学会基礎学術集会で優秀ポスター賞を受賞しました	16
日本血液学会賞を受賞しました	16
第56回日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞を受賞しました	17
第23回日本神経感染症学会学術大会で奨励賞を受賞しました	17
Best Doctors 選出されました	17
平成30年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました	17
日本臨床麻酔学会第38回大会で最優秀演題賞を受賞いたしました	18
第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018)で The Best Presenter Award を受賞しました	18
第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018)でポスター若手奨励賞を受賞しました	18
第26回日本消化器関連学会週間(JDDW 2018)でポスター優秀演題賞及び若手奨励賞を受賞しました	18
MSD 生命科学財団・2018年度研究助成(生活習慣病領域)を受賞しました	18
持田記念医学薬学振興財団・平成30年度研究助成金を受賞しました	18
第39回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました	19
武田科学振興財団研究助成金・平成30年度医学系研究助成を受賞しました	19
第66回日本化学療法学会西日本支部総会で支部奨励賞を受賞しました	19
第61回日本感染症学会中日本学術集会で学術奨励賞(基礎部門)を受賞しました	19
三井住友海上福祉財団贈呈式で財団奨励賞を受賞しました	20
第104回北米放射線学会(RSNA)で優秀賞を受賞しました	20
本学医学科6年生の中原さんが筆頭著者の論文が FEBS Letters に掲載されました	20
平成30年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業助成者決定(国際交流センター)	20
平成30年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました	21
第34回前立腺研究財団研究助成優秀課題賞を受賞しました	21
西日本医学生学術フォーラム2018で受賞しました	21
平成30年度 外部資金獲得状況	22

Information

公開講座情報	26
--------	----

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました	27
メディア掲載情報／編集後記	28

理事長・学長からのメッセージ vol.10

「主たる大学」を目指して、奈良医大の存在感を高めるために

明けましておめでとうございます。

昨年は教学面においても、診療面においても皆様方のご努力で全国に誇れる成果を出していただき、感謝申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

奈良医大の将来への進路を考えるにあたって、現状認識が大切だと思っています。そしてその現状認識は関係する方々と共有する必要があります。このような観点から、最近の重要事項を整理してみました。

奈良医大の進むべき道は

私は昨年3月23日に新聞紙上で「名古屋大・岐阜大運営統合協議」を見て、ここ数年の文科省の動き「国家の意思」が浮き彫りになってきたと感じました。どのような意思なのか。事実を経時的に並べてみますと、皆様方にも感じていただけたと思います。

この国家の意思に対して、奈良医大の選択肢は2つあります。一つは、「奈良医大が独自の決定権を持つ主たる大学」として存続する。もう一つは、「他大学の従たる大学として」存続することです。私は「主たる大学」として存続するための渾身の努力を続けたいと思っています。「従たる大学」になるのに他大学を超えるような努力は不要ですが、「主たる大学」においては、多くの人に認められるような業績を上げなければなりません。

主要な事実を経時的に見る

- ・2014年6月 学校教育法の改正法が公布
- ・2014年8月 法改正に伴い全国の国・公・私立大学長宛の文科省局長通知発出、全学長を文科省に招集(学長の役割、教授会の役割、学長選考方法改正、等)
- ・2015年8月 文科省、国立大学を3分類
- ・2018年3月 名古屋大と岐阜大が運営統合協議発表、名古屋大学が指定国立大学となる。
- ・2018年5月 文科省、国・公・私立の垣根を越えた大学等の連携推進法人のイメージを示す。「国立大再編、影に文科省」の報道(6月)
- ・2018年5月～7月 大学の法人統合報道相次ぐ

存在感のある大学への戦略

1. MBTの進展－奈良医大発の国家プロジェクトを目指す－

MBTを全国規模に発展させるため、下記のような取り組みを行っています。

- ・MBTコンソーシアム企業等会員
104会員(単科医科大学である奈良医大のもとに農林水産鉱業、石油ゴム窯業を除くすべての業種の企業が集まっている。)
- ・奈良医大各教室(組織)と企業とのマッチング状況
奈良医大側参加23組織、参加企業・団体側66組織(累計90回)

- ・MBT運動の発信

テレビ番組：5回、書籍：6書籍、新聞報道：31回、Web報道：28回、企業誌：3誌、報道資料提示等：11回

- ・MBTオープンミーティングin東京 (MBTコンソーシアム会員企業の協力による)

2018年11月27日 三井住友銀行本店(東京丸の内)、
2019年5月24日予定 日生劇場(東京日比谷、日本生命)



MBTオープンミーティング2018 in東京(2018年11月27日、三井住友銀行本店)

- ・国家戦略特区申請中

2. 有力大学との連携

- ・2018年12月13日 ミシガン大学(世界大学ランキング20位)との連携協定を締結しました。



ミシガン大学医学部とのMOU締結式
(2018年12月13日、ミシガン大学医学部にて)

3. 世界レベルの教授の招聘

2018年12月 けいはんなRCと奈良医大の関係を生かして、佐藤匠徳先生(ATR佐藤匠徳特別研究所所長、コーネル大学教授、2017年までの総引用回数12546回)を奈良医大寄附講座教授に招聘しました。

4. 臨床研究中核病院

臨床研究センター教授を選考し、臨床中核病院を目指します。

5. ワークライフバランス

タスクシェアなどに積極的に取り組みます。

6. 未来への飛躍基金

昨年も皆様のご協力のおかげで様々な事業を行うことができました。本年も引き続きご協力下さいますようお願い申し上げます。

米国ミシガン大学医学部と学術科学連携基本合意書を締結しました

平成 30 年 12 月 13 日、ミシガン大学医学部と学術科学連携基本合意書を締結しました。

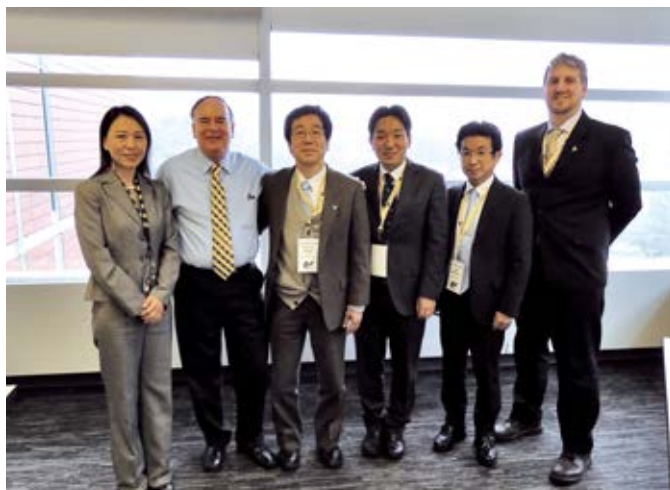
ミシガン大学は全米で高い評価を得ている州立大学で、THE 世界大学ランキング 2019 では 20 位にランクされています。

基本合意書では、共同研究、共同シンポジウム、ワークショップや会議の企画、FD 交流、客員研究員派遣等、医学的教育と科学的研究における協力を促進することを目的としています。

今回は 12 月 13 日～14 日に、細井理事長・学長、伊藤教授(免

疫学)、Bolstad 教授(臨床英語)、河村准教授(玉井進記念四肢外傷センター)がミシガン大学医学部を訪問し、Runge 医学部長との懇談、Kunkel 研究部長との懇談、Chung 教授の研究チームとのミーティング、施設見学、Japanese Family Medicine Clinic 訪問等、精力的に交流を深めました。

今後はミシガン大学との継続的な交流を目指し、連携を強固なものとしていきます。



Kunkel 研究部長と(左から 2 人目)



免疫学研究チームと



細井理事長・学長と Runge 医学部長



調印後の記念撮影

法医学領域の研究



法医学教室 羽竹 勝彦

法医学では動物実験などの研究に加え、日常の解剖実務において得られたデータを集積・解析し、その中からある事柄を明らかにしていく研究方法があります。当教室では主にアルコール研究を行っており、特に動物実験でのアルコールによる血管機能の変化や敗血症の増悪機構、そして解剖時に得られたデータの解析にもとづく研究をおこなっています。

1. 解剖から得られたデータの解析 (羽竹)

法医学の解剖では既往歴や現病歴などの病歴を含め、生前の生活環境など不明なことが多く、また身元不明のご遺体も多く発見されます。そのような状況で死因を究明し、あるいは個人同定する必要があります。したがって、死因究明に役立つ解剖所見、血液や尿からの有意な生化学検査所見を見いだすことなどが大切です。当教室では血液や尿からのアセトンの検出、また血液の生化学所見としてBUNやクレアチニンの上昇が凍死の補助的診断として有意義であることを明らかにしました。また歯の摩耗度を含めた口腔内所見からの年齢推定の計算式を報告しています。また多くの解剖事例の分析から、孤独死や奈良県での高齢者の用水路転落死亡の実態など社会医学的な研究も行っています。

2. 急性アルコール中毒時の敗血症増悪機構に関する研究

(粕田承吾准教授)

酩酊状態では、敗血症の発症率および死亡率がともに上昇することが知られていますが、その機序は複雑なものと考えられ、全容の解明には至っていません。特に血管内皮細胞や白血球の機能に着目して、マウス敗血症モデル (cecal ligation and puncture; CLP) などを駆使して、アルコールによる敗血症増悪機構の解明を目指しています。

急性期タンパクのpentraxin3 (PTX3) は、炎症性サイトカインTNF- α の刺激によりc-Jun N-terminal kinase (JNK) のリン酸化シグナルを介して、血管内皮細胞を含む全身の細胞から産生されます。近年PTX3が血中のヒストンと結合し、血管内皮細胞傷害を軽減することによって敗血症の進展を阻害することが明らかにされました。私たちは、アルコールがTNF- α 産生およびJNKリン酸化を二重に抑制することによって、PTX3産生を阻害していることを明らかにしました。

また、細菌感染が生じると、好中球はneutrophil extracellular traps (NETs) と呼ばれる核内DNAを主成分とした網目状構造物を放出し、細菌をからめとることによって感染の進展を防ぐことが知られています。しかし、NETsには血栓形成促進作用や血管内皮細胞傷害作用もあり、過剰な放出は却って敗血症を増悪させると言われています。アルコールがNETs放出を促進するのではないかという仮説を立てて、実験を進めておりこれを裏付ける結果が得られています。

アルコール中毒は社会医学的にも大きな関心事であり、臨床医学との接点を考えながら研究を進めています。

3. アルコールと血管機能に関する研究

(工藤利彩助教・勇井克也助教)

生体内に及ぼすアルコールの作用には二面性があり、少量から中等量のアルコール摂取は、血圧低下、線維素溶解およびHDL-コレステロールを増加させることによって心血管疾患を予防し得ることが知られていますが、一方、多量飲酒は、不整脈、心筋症、高血圧、冠動脈攣縮、脳卒中、突然死を引き起こすことがあります。血管機能に関しても二面性があり、低濃度のアルコールは血管拡張作用があるのに対し、高濃度のアルコールはサイトカインなどの炎症性物質が起因となる血管内皮細胞障害をきたし、血管収縮増強や血管拡張低下作用を示すことが知られています。これらの観点からラットの血管を用いて種々の血管作動性物質に対するアルコールの効果を検討しています。血管機能を解析することで飲酒による心血管疾患の予防効果および発症機序の解明に役立つものと考えられます。

1. MBT オープンミーティング 2018 in 東京

平成30年11月27日、奈良医大とMBTコンソーシアムは、三井住友銀行東京本店の大ホールで、2部構成の「MBTオープンミーティング2018 in 東京」を開催いたしました。第1部は、「奈良医大有力技術シーズ説明会」で、本学の有力シーズ4本を紹介いたしました。第2部はMBTコンソーシアム活動の中から事業に結び付いた2つの取り組みを紹介し、3年目を迎えたMBTコンソーシアムの急速な進展の状況を首都圏の企業・官公庁にPRしました。



第1部 酒井教授の発表の様様



第2部 梅田研究教授と企業による発表の様様

当日会場には、133人の参加者が集まり、その中にはバナン共和国のアデチュブ・マカミリ駐日特命全権大使も参加されました。ミーティング終了後の交流会場では、MBTコンソーシアム会員企業7社が、活動成果を紹介するパネルも展示して交流会の話題作りを盛り上げました。



細井理事長による
アデチュブ・マカミリ大使の紹介



交流会の様様

2. 「妊娠期・子育て支援サービス」の有用性を検討するための実証実験開始

奈良医大、橿原市、富士通等による「妊娠期・子育て支援サー

ビス」の有用性を検討するための実証実験を平成30年11月より開始しました。

本学と富士通は、平成29年度に「妊娠期・子育て支援サービス」の共同実証を行い、平成30年5月には富士通が販売開始しております。今回の新規実証実験は現行サービスのこれまでの経験を踏まえ、更なる展開を図るものです。

現行のサービスは、看護師や助産師、保健師などが24時間常駐するコールセンターにおいて、自治体や医療機関の専門窓口業務を代行するサービスです。各々の分野の専門資格を持った相談員が、電話やメール、チャットでの問い合わせに対応することで、妊娠期における母親やその家族が抱える健康相談や心配事など子育てに関わる様々な不安の軽減を支援します。

今回の実証実験では、更に子育てに関する深刻な状況（「産後うつ」や「児童虐待」など）への見守りを強化することとしております。自治体、医療機関、コールセンターが連携し、「初期にはリスクが低いと思われた通常妊産婦」に対する見守りを強化し、とりわけ産後のリスクアセスメント変化に対する予防や支援に繋がることを検証いたします。

11月2日には、細井理事長、森下橿原市長、富士通西田部長による本実証実験に関する覚書交換が行われ、NHKでも報道されました。



細井理事長、森下市長、富士通西田部長による覚書交換

3. 国土交通省スマートウェルネス住宅等推進モデル事業に採択

近鉄グループホールディングス、MBT研究所、三菱総合研究所、近畿日本ツーリストが提案していた「住宅団地が抱える4つの潜在的課題を解決する事業スキームの構築」が国土交通省平成30年度スマートウェルネス住宅等推進モデル事業（住宅団地再生部門）に採択されました。

これは、住宅団地における4つの課題「健康管理・健康増進」、「孤独死の防止」、「地域内消費活動の活性化」、「地域コミュニティの再生」を解決するスキームとして、健康サービス、生活サービス、コミュニティ再生の取組、地域内消費活動活性化を、健康データや環境データを収集するセンシング・通信デバイスと地域通貨を取り入れた仕組みでサービス提供し、その有用性等を検証するものです。

検索マスターへの道 (第12回) MEDLINE いろいろ

MEDLINE とは、世界中の雑誌約 5,200 タイトルの文献を検索することができる医学文献データベースです。よく知られている PubMed は MEDLINE を無料で検索できるプラットフォームの一つです。ところで MEDLINE は PubMed 以外でも検索できることは知っていますか？ MEDLINE は複数のベンダーから提供されており、本学では、Ovid、EBSCO、ProQuest の 3 社より検索できます（「図書館ホームページ」>「文献検索」参照）。PubMed との大きな違いは近接演算（複数の検索語の位置関係を「互いに何語以内に含む」など指定できる）が使えるところです。ほかにも検索時に使用するルール（検索コマンド）が異なります（以下の表参照）。システムティックレビューなど論文の Appendix で MEDLINE 検索式を確認する時に知っておくと便利です。

検索コマンド	PubMed	OvidSP	EBSCO	ProQuest
フィールド指定	検索語 [フィールド名 (コード)] stroke[tiab]	検索語. フィールドコード. →ドットではさむ。 フィールド間はカンマ。 stroke.ti.ab.	フィールドコード検索語→ フィールドコードは大文字 で 2 文字 TI stroke OR AB stroke	フィールドコード (検索語) TI,AB (stroke)
MeSH 用語の直接検索 (下位語含まず)	検索語 [MH:NOEXP] stroke[MH:NOEXP]	検索語/ stroke/	MH “検索語” MH "stroke"	MESH.EXACT (検索語) MESH.EXACT (stroke)
MeSH 用語の直接検索 (下位語含む)	検索語 [MH] Stroke[MH]	exp 検索語/ exp stroke/	MH “検索語+” MH "stroke+”	MESH.EXACT.EXPLODE (検索語) MESH.EXACT.EXPLODE (stroke)
MeSH 用語の直接検索 (中心テーマに限定/ 下位語含む)	検索語 [MAJR] Stroke[MAJR]	exp * 検索語/ exp *stroke/	MM “検索語” MM "stroke+”	MJMESH.EXACT. EXPLODE (検索語) MJMESH.EXACT. EXPLODE (stroke)
前方一致	検索語 * econom* ※ PubMed で検索される のは最大 600 語まで	検索語 \$ または 検索語 * econom\$	検索語 * econom*	検索語 * econom*
中間任意 (前後一致)		[#]: 任意の 1 文字 [?]: 任意の 0 または 1 文字 wom#n tumo?r	[?]: 任意の 1 文字 [#]: 任意の 0 または 1 文字 wom?n tumo#r	[?]: 任意の 1 文字 wom?n
近接演算子		[ADJn]: 互いに n 語以内に 含む sore adj3 throat	[Nn]: 互いに n 語以内に含む sore N3 throat [Wn]: 互いに n 語以内に 含む (入力した語順) breast W5 cancer	[NEAR/n]: 互いに n 語以内に 含む sore NEAR/3 throat [PRE/n]: 互いに n 語以内に 含む (入力した語順) breast PRE/5 cancer

OvidSP <http://resourcecenter.ovid.com/site/help/documentation/ospa/en/Content/syntax.htm>

EBSCOhost <http://support.ebsco.com/help/index.php>

ProQuest <https://proquest.libguides.com/proquestplatform/tips>

MEDLINE <https://www.nlm.nih.gov/bsd/medline.html>

『図解 PubMed の使い方第 7 版』, 日本医学図書館協会, 2016

未来への飛躍基金だより

2018年度寄附申込経過報告(12月12日現在)

申込件数 598件
申込金額 134,281,800円

※前年度実績：516件 / 121,731,100円

日頃より「未来への飛躍基金」に対しご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

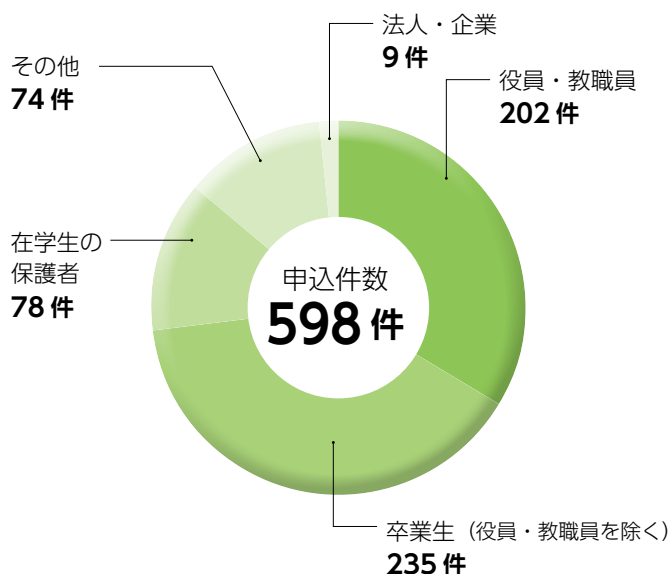
お陰様で今年度も上記のとおり、多くの皆様にご協力いただいております。

しかしながら、学生の海外研修への支援、国家試験対策への支援及び臨床研究中核病院の承認への支援等幅広く基金を活用し、本学が全国的に存在感のある大学として、何十年も存続していくためには皆様からの継続的なご協力・ご支援が不可欠です。

今後引き続き協力を賜りますようお願いいたします。

活動報告書には、寄附実績及び活用事業、また支援を受けた学生の声を掲載しております。パンフレット及び活動報告書が必要な方は、下記連絡先までご連絡ください。

奈良県立医科大学総務課基金推進係 TEL：0744-23-9973(直通) E-mail：hiyakukikin@narmed-u.ac.jp



緩和ケアセンター・がん看護外来の紹介

みなさん、緩和ケアセンターがどこにあるかご存じでしょうか。E棟1階のドトールコーヒーが見えたらすぐそこです。向かいにはがん相談支援センターがあり、いつでも連携できる体制をとっています。緩和ケアセンターではがん看護外来も開設しており、気がかりな患者さんやご家族がおられた時は、どの職種の方からも介入の依頼を受け付けています。

私たちは、「患者さん・ご家族がいつでもどこでも安心して緩和ケアを受けることができ、希望をもってより豊かに生活できるよう支援すること」をミッションとし、多職種チームで診療やケアにあたっています。以前は、「緩和ケア」＝「終末期の医療」ととらえられていましたが、今ではどんな時期においても必要な医療と考えられるようになってきました。そして、緩和ケアの対象は決してがん患者さんだけではありません。緩和ケアは、あらゆる病気に伴って生じる身体的、心理・社会的、実存的(スピリチュアル)な苦痛を緩和し、生活の質の向上をめざす医療です。私たちは、患者さんやご家族の苦痛がどこから来ているのか、どうすれば和らげることができるのか、ということに向き合いながら、可能な限りその人らしく生活するためのお手伝いをしています。実際の診療では、薬物療法で痛みなどの症状を和らげたり、症状緩和に難渋するケースでは、

アロマセラピーといった薬物療法以外のアプローチも行っています。また、病気とともに生きる中で、患者さん・ご家族が病気とどう向き合いたいのか、どんな時間を過ごしたいのかを支える意思決定支援、病状の悪化に伴う苦痛の中で生きる意味を見いだせなくなるような苦悩に対して、現場のスタッフの方々とともに1日1日に希望を見いだせるようなケアを模索しています。

これからも現場で医療を行っている皆さんと一緒に、患者さん・ご家族のQOLの向上を目指してチーム医療をやっていきたいと思っております。もし気になる患者さん・ご家族がおられましたら、ぜひ緩和ケアセンターまでご連絡ください。



10.1 シーズ集を発行しました

今年度は72名の先生方のシーズ集を発行しました。

シーズ集は、本学在職の研究者とその研究活動に関する情報を広く社会に紹介し、本学の知的財産を産学官連携活動に有効に活用してゆくことを目指し作成しております。本学のHPで公開する他、冊子版は公的機関や企業の研究開発部門等にも配布しています。

大学が研究成果を社会に還元していくためには、企業等との連携が不可欠です。まずは、大学が何を研究しているのか知ってもらい、本学と企業等を結ぶ架け橋の役割を、シーズ集が果たしてくれると期待しています。

また、新しいシーズがございましたら、研究推進課までご連絡ください。



展示中のシーズ集



10.1 株式会社タカトリ内にMBT 研究所分室を開設しました

平成25年6月より、本学と株式会社タカトリは相互に、新たなイノベーションの創出に取り組み、学術及び産業の振興と地域の発展に寄与することを目的とした産学連携に関する包括協定を締結しています。その一環として奈良医大連携ラボをタカトリ株式会社内に設置しています。

平成30年の10月には、連携ラボ内に新たにMBT研究所分室を開設し、遊佐講師がラボ内で研究を行っています。12月3日には、MBT研究所所長である細井理事長・学長とともに定例の運営会議を行いました。運営会議では、MBT構想の取り組み状況や今後の展開について、熱心な議論が交わされました。



運営会議の様子



MBT 研究所所員 左から2番目が遊佐講師

10.10 駐日ベナン共和国大使が本学を訪問されました

平成30年10月10日、西アフリカに位置するベナン共和国のアデチュブ・マカリミ駐日大使が、本学を訪問されました。

ベナン共和国の現在構想段階であるスマートシティと、本学との医学分野やMBT構想での連携の可能性について、活発な意見交換が行われました。

また、大使は本学の取り組むMBT構想に共感され、去る11月27日に東京で開催されたMBT Open Meetingにもご参加くださり、交流を深めました。



懇談の様子



記念撮影 (左から3人目がアデチュブ大使)

10.10 ~ 12 BioJapan2018に出展しました

アジア最大級のマッチングイベントである「BioJapan2018」が、パシフィコ横浜にて3日間にわたり開催され、本学から中央手術部 新城助教、麻酔科学 林講師が術中神経モニタリングに関するシーズ「刺激電極付き尿道カテーテルの開発」を出展しました。出展ブースでは、ポスターやサンプルを用い、電極機能を併せ持つカテーテルによる精度の高いモニタリング技術について、先生方と来場者との活発な交流が行われました。今後も、こういったイベントを通じて、本学研究シーズと企業等とのマッチングの機会を増やしていきたいと考えています。

【出展シーズ】「刺激電極付き尿道カテーテルの開発」
中央手術部 新城武明
麻酔科学 林浩伸 川口昌彦



出展ブースの様子



新城助教 (左)
林講師 (右)

10.12

第3回奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

丹村 敏則先生（知多厚生病院副院長）による「知らなきゃ損！」シリーズ第3回目は、「チーム医療・地域連携で漢方薬を活かす」をテーマにご講演いただきました。

丹村先生は、愛知県知多半島南部における地域医療連携および院内チーム医療の中心的役割を担われており、その中で漢方薬をどのように活用しているのか、たくさんのアイデアを紹介して頂きました。病気の予防や回復には、食生活や運動のことがよく言われますが、それらと同じように漢方薬を捉え、病気の予防等に役立てていくこともできるという、豊富な経験に基づく講演内容に、参加者の先生方は熱心に耳を傾けておられました。

次回は、

2月7日（木）18:30～20:00 厳橿会館3階大ホール
「知らなきゃ損！」～Dr 丹村の総まとめ漢方講座～です。
皆様の参加をお待ちしております。



丹村先生



(司会) 教育開発センター 藤本教授



講演中の様子（厳橿会館3F大ホール）

10.17
～19

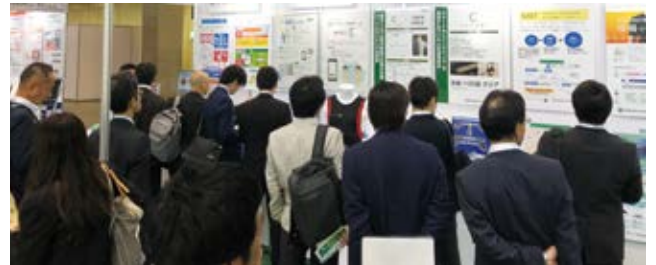
日経xTECH EXPO2018・デジタルヘルス DAYSに出展しました

東京ビッグサイトにおいて日経xTECH EXPO2018・デジタルヘルス DAYSが開催されました。「次世代ヘルスケアを支える多種多様なプレーヤーの“出会いの場”」をテーマに医療・健康・介護の情報化に関する展示会で、クラウド、IoT、ウェアラブルなどの多彩な製品や技術の出展がありました。

本学からはMBT研究所が、MBTコンソーシアム参画企業とともにブース出展し、梅田智広研究教授が「MBT研究所による出口戦略およびSociety5.0の実現」と題して講演しました。



梅田研究教授



展示ブース

10.27
10.28

平成30年度白檀生祭を開催しました

白檀生祭実行委員長 中島 一

落葉した樹々の凛とした姿に暮れ行く秋を感じるようになった、平成30年10月27日、28日に平成30年度白檀生祭を開催させていただきました。

本年度は「NMU～Nice to Meet U～」というテーマを掲げました。この白檀生祭を通して、今まで奈良医大をよく知らなかったという方にも医大を身近に感じて頂けたのではないかと思います。またこの学祭運営を通して学んだことを今後の学生生活、延いては医療従事者としての人生に活かせるようになればと思っております。

平成30年度白檀生祭を開催するにあたり、ご協力いただきました近隣の皆様方、お忙しい中、パンフレットに掲載して下さった病院、企業、店舗各位、様々な形で協力して下さった教室、同窓会各位、ご指導ご鞭撻下さった諸先生方、アドバイス下さった先輩方にはこの場をお借りして実行委員一同より深く御礼申し上げます。



11.2

「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証開始について

富士通株式会社、橿原市と本学が連携して行う「妊娠時からの子育て世代包括見守り」の実証実験が平成30年11月に開始しました。これは、産婦人科学小林教授が富士通株式会社と共同実証を行い、今年の5月より販売が開始した「妊娠期・子育て支援サービス」を進展させたもので、妊婦から子育て世代までの心のケアを行うものです。

11月2日には、NHKの取材が学長室で行われ、2日と3日の両日NHKのニュースで全国版にて報道されました。行政、医療機関と民間企業が共同して産前産後の支援を行う試みは全国的にも珍しく、関心を高めています。



インタビューを受ける
細井理事長・学長



左から富士通株式会社西田シニアディレクター、森下橿原市長、細井理事長・学長、小林教授

11.6

特別共同研究助成事業 研究成果報告会を開催しました

本学では、複数の講座・領域等で取り組む横断的共同研究活動を助成し、連携研究活動の一層の活性化を図り、本学の将来像に定めた横断的・共同研究を推進する事業を実施しています。

このたび、助成期間が終了した研究課題（H28～H29）について研究成果報告会を開催しました。

なお、この事業は今年度より「特別共同研究助成事業」から「横断的共同研究助成事業」となりました。

「インフルエンザ重症化の病態解明」

免疫学 教授 伊藤 利洋

「包括的凝固線溶ダイナミクス解析を基盤とする播種性血管内凝固（DIC）の新規診断法の確立に関する探索的研究」

小児科学 教授 嶋 緑倫



免疫学 伊藤利洋教授



小児科学 嶋緑倫教授

11.9
～22

訪問看護実習について

看護部主催の「退院支援研修」が平成30年11月8日に行われました。看護学科在宅看護学教授の小竹久美子先生、橿原訪問看護ステーションセンター長の伊藤絹枝氏を講師にお迎えし、退院支援力や、訪問看護の実際・在宅におけるチームケアについてお話しいただきました。また、「退院日が決定した患者のケアにおいて、今までに看護師としてのジレンマや葛藤があったケース」についてグループワークを行い、活発な意見交換の場となりました。これらを踏まえ11月9日から11月22日にかけて、15名の看護師が、橿原訪問看護ステーションでの訪問看護同行実習に参加しています。今回の研修と実習は、各部署で継続看護の充実と推進のために教育的支援活動に取り組んでいる継続看護委員を対象に行っています。参加者は実際の訪問看護の現場を見て、改めて入院早期からの細やかな情報収集の大切さや、病棟・外来・地域間で情報共有を行うことの必要性を認識し、各部署での取り組むべき課題を考えることへと繋げていました。



訪問看護同行実習でお世話になった
橿原訪問看護ステーション

11.10

奈良県立医科大学剣道部OBチーム（寧剣会）が奈良県代表として第67回全国青年剣道大会に出場しました

11.11

平成30年11月10日～11日に皇室の瑤子女王殿下ご臨席のもと東京武道館で開催された第67回全国青年剣道大会に吉田克法（監督：昭和54年卒）、川合章仁（平成29年卒）、吉田貴法（平成29年卒）、杉岡修平（平成28年卒）、榎本尚助（平成26年卒）、草野信義（平成25年卒）の6名が奈良県剣道連盟の推薦を受けて団体戦奈良県代表として出場しました。試合成績は、1回戦は広島県に勝利し2回戦は青森県に惜敗しましたが、有意義な大会でした。



開会式にて（東京武道館）

11.13

同志社女子大学と共催で 院内コンサートを開催しました

本学と同志社女子大学とは、教育・研究・診療に関する相互支援などを目的として、学術交流に関する包括協定を締結しています。

この一環として、附属病院北玄関において同志社女子大学の学生による院内コンサートを開催しました。今回は、オーボエ・サクソ・ピアノによるトリオコンサートで、手拍子によるアンコールも出るなど入院患者の皆様は大盛況でした。演奏する学生のみなさんにとっても学びの成果を他の人に生かすという貴重な体験の場となっています。



11.15

FD・SD 講演会を開催しました

女性研究者支援センターは、教育開発センター・人事課と共催でFD・SD講演会を開催しました。

講師に筑波大学ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター佐々木銀河准教授をお招きし、「障害者差別解消法を踏まえた発達障害の診断または傾向のある学生への対応」と題してご講演いただきました。

国公立大学では、障害者差別解消法により障害学生への合理的配慮の提供が義務化されていることが説明され、合理的配慮の事例を動画も交えながらご紹介いただきました。講義後のアンケートでは「発達障害の学生への対応がよく分かった」「今後の学生との接し方の参考にしていきたい」といった感想がありました。

女性研究者支援センターでは、今後も多様な人材が活躍できる環境づくりを目指して啓発活動を続けていきたいと思えます。



講演を行う佐々木准教授



講演の様子

11.18

くすりの町の漢方マルシェに出展しました

高取町リベルテホールにおいて、高取町医療ツーリズム推進協議会（会長：細井理事長・学長）の一環の行事として、「第2回くすりの町の漢方マルシェ」が開催され、MBT研究所が健康測定ブースを出展しました。ブース内では、メタボ診断などの測定と「おしえて奈良医大！」のビデオ放映を行いました。

今回も、参加された方々が健康について考えるきっかけの場となりました。今後も、「健康」をテーマにしたイベントを出展し、より多くの方々に健康について考える場の一つとして情報を発信します。



メタボ測定の様子

11.19 組換え DNA 実験安全委員会講演会を開催しました

全国大学等遺伝子研究支援施設連絡協議会 代表幹事 田中伸和先生（広島大学自然科学研究支援開発センター・遺伝子実験部門）に「遺伝子組換えとゲノム編集実験 - 拡散防止措置の考え方と安全管理 -」と題し、遺伝子組換え実験を実施する際の拡散防止の考え方や方法等についてご講演いただきました。

また、ゲノム編集生物の取扱い方針等についてもご説明いただき、遺伝子組換え実験を安全に実施することの大切さをお話いただきました。



田中伸和先生

11.20 奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化に向けたセミナーを開催しました

本学と奈良先端科学技術大学院大学は、医工学融合分野等における相互の学術交流を通じて、教育・研究・医療のレベルを一層高めることにより、研究開発の推進及び人材の育成を図り、地域社会の発展に寄与することを目的として、相互協力に関する包括協定を締結しています。

この連携を活性化するため、平成 30 年 8 月に両大学 4 名ずつの委員から構成される連携活性化委員会を設置し、協議を重ねてきました。

しかし、お互いの学校にどのような研究者がいて、どのような研究を行っているのかについて十分な理解がないため、相互理解を深められるよう、まず、奈良先端科学技術大学院大学情報科学領域生体医用画像研究室 佐藤嘉伸教授を本学に講師に迎え、「医用画像処理の診断・手術支援応用：人工知能、立位 MRI 装置などの話題を交えて」のテーマで講演をいただきました。

本学からは、研究内容について、病理診断学の大林教授、放射線医学の西尾福講師、循環器内科学の尾上学内講師らによるプレゼンテーションを行い、佐藤先生他、先端大の方も興味深く聞いておられました。

セミナーには、多くの参加者があり、質疑応答や、講演後に個別に交流を持たれたり、盛況のうちに終了しました。

先端大との連携活性化にむけた取り組みを今後も予定しております。連携活性化には先生方の協力があってこそですので、ぜひご参加ください。その際は、一斉メールまたは各所属にご連絡いたします。



講演を行う 佐藤教授



大林教授



尾上学内講師



西尾福講師



熱心に聞き入る参加者

11.27

MBT オープンミーティングを開催しました

株式会社三井住友銀行本店において、「MBT オープンミーティング 2018in 東京」を開催し、首都圏の企業を中心に、本学の研究シーズと MBT の成果を紹介しました。

当日は、細井理事長・学長より開会の挨拶と MBT の今後の展望について講演の後、本学麻酔科学川口教授、化学酒井教授、未来基礎医学森特任講師、血栓止血医薬生物学共同研究講座坂田助教の 4 名の先生からは、

研究シーズを参加企業へアピールしました。交流会では、企業と先生方が積極的に意見を交わされました。首都圏へ奈良医大の取り組みを広めることができ、盛況のうちに終わりました。



MBT を紹介される細井理事長・学長



交流会の様子

12.2

今井町家めぐりへの協力

町家の様々な活用事例を現在に伝えることを目的とした「NPO メッセ今井町家めぐり」が開催されました。本学は、昨年度オープンした今井町ゲストハウスを紹介しました。当日は、町家めぐりスタンプラリーの会場として、早稲田大学医学を基礎とするまちづくり研究所今井町分室と共に MBT 研究所が参加し MBT のまちづくりの活動紹介を行いました。

観光客の方々をはじめ、市内にお住まいの幅広い年齢層の方々からゲストハウスとしての活用方法について興味津々でした。天候にも恵まれ和やかな 1 日となりました。



来場者への説明を行う遊佐先生



スタンプラリー会場となったゲストハウスの様子

12.4

北海道総合研究調査会住まいのイノベーション研究会が来学

北海道からの視察団（北海道総合研究調査会、厚生労働省北海道厚生局局長、課長、北海道沼田町長、北海道建設新聞社、民間企業他）が奈良医大を訪れました。本年の日経デジタルヘルス DAYS2018 の 10 月 18、19 日に行われた講演を聞かれた北海道総合研究調査会のメンバーが MBT 活動に強い関心を示したものです。北海道総合研究調査会は、現在、厚生労働省の公募事業の採択を受け「地域包括ケアにおける『住』のイノベーション」をテーマに研究を行っています。MBTLink を活用した各種サービスに強い関心を示され、来年度、北海道北西部の豪雪地帯にある沼田町との連携や MBT の北海道展開も視野に討議を行いました。



MBT について説明される細井理事長・学長



視察団の方々と細井理事長・学長と MBT 研究所梅田研究教授

12.4

医学部医学科「Student Doctor 認定証・白衣授与式」を行いました

平成 30 年 12 月 4 日に、大講堂において、医学科 4 年生 111 名の Student Doctor 認定証・白衣授与式が執り行われました。

細井学長をはじめ、多くの先生方から激励のお言葉をいただき、その後、代表学生 4 名に対し、学長から全国医学部長病院長会議から認定される「Student Doctor 認定証」が手渡され、続いて学長、医学部長、附属病院長、同窓会長から、それぞれ白衣が授与されました。白衣授与後、学生を代表し、新 5 年生小倉黎さんが、臨床実習において真摯に勉学に取り組み、患者さんから信頼される医師になることを宣誓しました。



12.19

イノベーションストリーム KANSAI のシンポジウムに参加しました

「うめきた 2 期から世界に向けて～大阪・関西をひとつに～」

うめきた 2 期みどりとイノベーションの融合拠点形成推進協議会が主催する、イノベーションストリーム KANSAI が開催されました。これは、主要な関西での大学や研究機関が核となり、多様な企業と推進するプロジェクトの現状やこれまでの研究成果や今後の取組を紹介するもので、本学からは MBT 研究所の梅田智広研究教授が、MBT での産学連携についてプレゼンテーションを行い、ご来場の聴衆の皆様へ MBT 事業の成果を発表しました。



シンポジウムの様子

学報編集委員会 からのお知らせ

寄稿記事募集案内

「学報」では、奈良県立医科大学や附属病院に関すること、お知らせ等を掲載するため、これらに関連する記事を広く募集しております。

掲載を希望する記事がある場合は内線2206までお問い合わせください。

なお「学報」は年4回発行しており、本学教職員・学生のみならず本学同窓会会員や関連大学・病院等にも配布しております。



就任のご挨拶



脳神経内科学 教授

杉江 和馬

平成 29 年 11 月 15 日に脳神経内科学講座教授を拝命致しました。当講座は昭和 56 年に関西初の本格的な神経内科学講座として開設され、高柳哲也先生、上野 聡先生に続き、第 3 代教授に就任しました。本学開校 74 年の半分 37 年の歴史ですが、伝統を礎に新たなステージへ飛躍すべく新体制を構築する所存です。

私は、平成 7 年本学卒業後、一貫して神経筋難病研究に従事し、様々な新知見を世界へ発信してきました。臨床では脳神経内科のみならず common disease である脳卒中や認知症、頭痛症、臨床遺伝の専門医として尽力してきました。脳神経内科学は驚異的な脳科学の進歩で、今後も飛躍が期待される分野です。超高齢化社会では当講座で担う脳卒中や認知症の増加が予想されます。社会の需要に応えるべく後進育成に向けて、ハンマー 1 本から得る脳神経内科学の真髄を教育致します。学内外との研究を推進し独創性の高い研究から世界最高基準へ向けて邁進する所存です。

なお、日本神経学会の方針に従い、平成 30 年 7 月「神経内科」から「脳神経内科」へ標榜変更致しました。また平成 29 年 10 月に開設しました脳卒中センターにおいて副センター長を兼務しております。超急性期から慢性期を担う「脳神経内科」医局員一同、期待される最善の医療提供や挑戦的研究、医師育成に精励する所存です。何卒ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Winner Report

6.2

第4回心筋症研究会で Young Investigator Award 優秀賞を受賞しました

循環器内科 医員 中野 知哉

このたび、平成 30 年 6 月 2 日に奈良春日野国際フォーラム 薔〜ト RA・KA〜で開催されました第 4 回心筋症研究会において、Young Investigator Award 優秀賞を受賞いたしました。演題名は「たこつぼ症候群発症過程におけるβ受容体シグナル減弱の関与」でした。たこつぼ症候群の発症メカニズムはよく分かっておりません。今回、患者の心筋組織を用いて、交感神経系の過剰亢進により生じるβ受容体シグナル動態の変化がたこつぼ症候群発症に関与している可能性を初めて組織学的に示しました。受賞に際しまして、斎藤教授をはじめ、ご指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。

9.22
9.23

第2回日本循環器学会基礎研究フォーラムで Grant Award を受賞しました

循環器内科 研究員 熊澤 拓也

この度、第 2 回日本循環器学会基礎研究フォーラムにおいて Grant Award を受賞いたしました。受賞課題は心腎連関といわれる心疾患と腎疾患のつながりに関する新たな知見です。我々は心腎連関の増悪を抑制する新規の Long Noncoding RNA (LncRNA) を発見し機能を解析しました。現在はこの LncRNA の機能コア配列・制御方法を探索し、疾患の診断や治療への応用を目指しております。この LncRNA の補充療法が心不全を抑えることは動物モデルより明らかになっており、今回の発見は次世代の創薬に繋がるものと期待しております。今回明らかにした研究結果を、医療に還元できるようにさらに精進してまいりたいと思います。



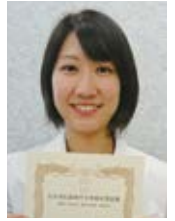
9.29

日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会で専修医奨励賞を受賞しました

内科学第三 医員 大崎 結衣

平成 30 年 9 月 29 日に大阪国際交流センターで行われた日本消化器病学会近畿支部第 109 回例会におきまして専修医奨励賞を受賞しました。演題名は「MTX 関連リンパ増殖性疾患が疑われた follicular lymphoma の 1 例」です。

原因不明の小腸イレウスに対し小腸バルーン内視鏡を行うことで診断および適切な治療を行うことができた非常に稀な症例について発表しました。受賞に際し、ご指導いただきました吉治教授ならびに諸先生方に深く感謝申し上げます。これからも日々の診療に励みたいと思っております。

10.11
10.12

第 33 回日本整形外科学会基礎学術集会で優秀ポスター賞を受賞しました

口腔外科学 医員 今田 光彦

平成 30 年 10 月 11 日、12 日に開催された第 33 回日本整形外科学会基礎学術集會において優秀ポスター賞を受賞しました。演題名は「塩基性線維芽細胞増殖因子 (bFGF) を用いたビスフォスフォネート関連顎骨壊死 (BRONJ) の予防法の実験的検討」で、骨粗鬆症などで使用される骨吸収抑制剤の副作用として広く認知されている顎骨壊死の予防法について、動物モデルを用い検討した内容です。専門分野外の学会でこのような賞を受賞し大変うれしく思います。

受賞に際しまして、口腔外科桐田教授、整形外科田中教授を初めとした多くの先生方には心より感謝申し上げます。



10.14

日本血液学会賞を受賞しました

小児科学 教授 嶋 緑倫

この度、嶋緑倫は第 7 回 (平成 30 年度) 日本血液学会賞を受賞し、10 月 14 日より大阪国際会議場で開催されました第 80 回日本血液学会学術集會にて、「第 VIII 因子の解明と FVIIIa 代替バイスペシフィック抗体製剤の開発への道」のテーマで受賞講演をさせていただきました。この度の受賞は小児科教室の研究グループの努力の賜物ではありますが、わが国で初めて血友病 B を発見した吉田邦男、福井弘、吉岡章先生をはじめとする先輩の先生方の血友病に関する臨床と研究の蓄積があったからこそでもあり、深謝いたします。



10.18
~ 20

第56回日本癌治療学会学術集会で優秀演題賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、パシフィコ横浜で行われた第56回日本癌治療学会学術集會におきまして、『優秀演題賞』を受賞いたしました。受賞演題は、「根治的前立腺全摘術後生化学的再発に対する救済放射線治療後二次再発の定義比較解析」です。年々増加している前立腺癌の根治治療である全摘術のあとに再発する症例は少なくなく、その臨床的取り扱いの最適化を目指した研究です。本研究の遂行にあたり、ご指導、ご支援いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。



10.19
10.20

第23回日本神経感染症学会学術大会で奨励賞を受賞しました

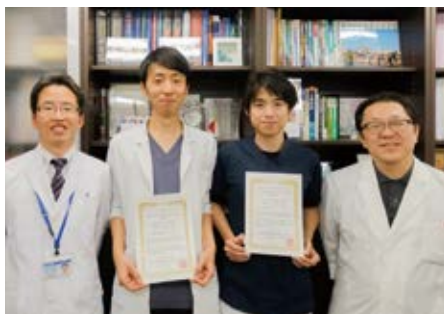
脳神経内科学 医員 七浦 仁紀

平成30年10月19日~20日に東京で開催された第23回日本神経感染症学会学術大会において奨励賞を受賞しました。演題名は「髄液中の抗中性糖脂質抗体を追跡し得た Encephalomyeloradiculoneuropathy (EMRN) の2例」で、藤田医科大学脳神経内科学講座との共同研究によるものです。近年、急性~亜急性に中枢・末梢神経を障害し、抗中性糖脂質抗体が陽性となるEMRNという疾患概念が提唱されましたが、本研究では髄液中の抗体価と病勢との関連について検討しています。受賞に際し、御指導いただきました多くの先生方に、この場をお借りして深く感謝申し上げます。



脳神経内科学 後期研修医 井口 直彦

平成30年10月19日~20日に東京で開催された第23回日本神経感染症学会学術大会において、奨励賞を受賞しました。演題「脊髄炎で発症し肺肝病変を伴ったトキソカラ症の1例」は、当科と病原体感染防御医学講座との共同研究によるもので、トキソカラ症における脊髄炎の特徴的なMRI画像所見の経過を報告しました。神経型トキソカラ症の病態と診断を考える上で貴重な症例研究となったと考えています。受賞に際しまして、御指導いただきました先生方に心より感謝申し上げます。



11.1 Best Doctors 選出されました

産婦人科学 助教 棚瀬 康仁

この度、毎年ベストドクターズ社が提供している医師同士の相互評価にもとづいた信頼できる名医・専門医を案内するサービスである、Best Doctorsに選出されました。実は、今年で2015年度から3年連続して選出いただきましたので、改めてこの度ご報告させていただきます。自分の拘って積み重ねてきたことが多少なりとも評価いただけたのだと嬉しく思っています。来年度も継続して選出いただけるように、一層邁進したいと思います。



11.1 平成30年度日本医師会医学研究奨励賞を受賞しました

疫学・予防医学 准教授 大林 賢史

【受賞対象研究題目】
「光曝露の健康影響：大規模前向きコホート研究による検証」

本学疫学・予防医学講座の大林賢史准教授が、平成30年11月1日に東京の日本医師会館で開催された日本医師会設立71周年記念式典で医学研究奨励賞を受賞しました。日本医師会医学研究奨励賞は昭和37年に設立され、基礎医学・社会医学・臨床医学を通じ、医学上将来性に富む研究を行っているものに授与される賞で、歴代受賞者には日本を代表する研究者が数多く名を連ねています。本受賞対象研究では、現代社会で急激に増加している夜間の人工光の健康影響を示唆したことの新規性や重要性が高く評価され、受賞に至りました。今後、コホート追跡を継続するとともに、より大規模な調査を行い精度の高い研究結果を公表していきたいと考えています。



Winner Report

11.1 ～3 日本臨床麻酔学会第38回大会で 最優秀演題賞を受賞いたしました

麻酔科学 診療助教 紀之本 茜

平成30年11月1日から3日に小倉で開催された日本臨床麻酔学会第38回大会におきまして、最優秀演題賞を受賞いたしました。受賞演題は「ロボット支援下前立腺全摘術における術後視機能障害と術中視神経鞘径の関係性の検討」です。多くの方々にご協力、ご指導賜り研究を完遂することができ、感謝に堪えません。今後もロボット支援下手術は増加が予想されますが、周術期のさらなる安全性向上ため積極的に臨床や研究に取り組んで参ります。



11.1 ～4 第26回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2018) で The Best Presenter Awardを受賞しました

消化器・総合外科学 学内講師 野見 武男

平成30年11月2日に開催された第26回日本消化器関連学会週間において、The Best Presenter Awardを受賞しました。受賞演題名は「Laparoscopic anatomical liver resection」です。教室では従来、腹腔鏡手術に注力しています。本演題は、腹腔鏡下肝切除の中でも、難度の高い系統的肝切除の有用性を示す研究です。これからもさらなる治療成績の向上を目指して努力してまいります。本受賞にあたり、御指導賜りました庄教授に深く感謝申し上げます。

11.1 ～4 第26回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2018) でポスター若手奨励賞 を受賞しました

消化器・総合外科学 病院助教 吉川 高宏

平成30年11月3日に開催された第26回日本消化器関連学会週間において、ポスター若手奨励賞を受賞いたしました。受賞演題名は、「肝障害度B肝細胞癌に対する腹腔鏡下肝切除の有用性」です。本演題は、腹腔鏡下手術の特徴である低侵襲性を生かし、術前肝予備能の低下した症例に対する有用性を示したものであります。今後とも様々な臨床研究を通し、肝癌の予後向上を目指していきたくと考えております。本受賞にあたり、ご指導いただきました庄教授はじめ、医局の先生方に深く感謝申し上げます。



11.1 ～4 第26回日本消化器関連学会週間 (JDDW 2018) でポスター優秀演題賞 及び若手奨励賞を受賞しました

消化器・総合外科学 医員 中村 広太

第26回日本消化器関連学会週間において「抗血栓剤服用歴が脾切除後出血合併症に及ぼす影響」が、ポスター優秀演題賞及び若手奨励賞を受賞しました。脾切除術後出血において、抗血栓剤の服用が重要な危険因子である事を先駆的に報告しました。今回の受賞を励みとして、今後もさらに基礎・臨床研究に励む所存です。本研究にあたり多大なる御指導を賜りました庄雅之教授、研究に御協力いただきました皆様に厚く御礼申し上げます。



11.3 MSD生命科学財団・2018年度研究助成 (生活習慣病領域)を受賞しました

未来基礎医学 特任講師 森 英一朗

この度、「Desmin異常による心筋症の生化学的研究」を研究テーマとして、MSD生命科学財団・2018年度研究助成（生活習慣病領域）（200万円）を受賞しました。本研究では、細胞骨格・中間径フィラメントの一種であるDesminの異常によって生じる心筋症の病態発症を生化学的な手法を用いて明らかにすることを目指しております。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



11.8 持田記念医学薬学振興財団・ 平成30年度研究助成金を受賞しました

未来基礎医学 特任講師 森 英一朗

この度、「ヒト脳オルガノイドを用いたMowat-Wilson症候群の病態解明」を研究テーマとして、持田記念医学薬学振興財団・平成30年度研究助成金（300万円）を受賞しました。本研究では、神経難病であるMowat-Wilson症候群の病態発症機序を、ヒト脳オルガノイドを用いて明らかにすることを目指しております。本受賞を励みに、今後益々、研究に精進したいと思います。



11.15

第39回奈良県公衆衛生学会で 優秀演題賞を受賞しました

疫学・予防医学 助教 山上 優紀

【受賞対象研究題目】

「夜間寝室騒音レベルと睡眠の質の関連：
平城京コホート研究横断分析」

本学疫学・予防医学講座の山上優紀 助教が、平成30年11月15日に奈良県医師会館で開催された第39回奈良県公衆衛生学会で優秀演題賞を受賞しました。奈良県公衆衛生学会優秀演題賞は、地域の健康増進に寄与する学術的に優れた演題に授与されるものです。本受賞演題は本学疫学・予防医学講座で平成22年から実施している平城京コホート研究の横断分析の結果で、対象者993人の自宅寝室に設置した騒音計で測定した騒音レベルが睡眠の質と関連することを報告したものです。今後、追跡調査のデータを用いた縦断分析の結果を公表していきたいと考えています。

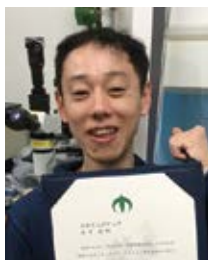


11.12

武田科学振興財団研究助成金・ 平成30年度医学系研究助成を受賞しました

脳神経内科学 助教 松井 健

この度、武田科学振興財団研究助成金・平成30年度医学系研究助成（200万円）を受賞しました。本研究では、CRISPR/Cas9を用いたゲノム編集によって、ヒトES細胞（胚性幹細胞）に神経難病であるMowat-Wilson症候群の原因となるZEB2遺伝子の変異を導入し、この細胞を用いてヒト脳の発生過程を試験管内で再現するヒト脳オルガノイドを樹立し、本疾患の発症機序を明らかにすることが目標となっております。現在までにMowat-Wilson症候群の治療法はなく、本疾患の患者さまはてんかんや精神発達遅滞などの症状に苦しんでおります。本受賞を励みに、新規治療法の開発に精進したいと思います。

11.16
~19

第66回日本化学療法学会西日本支部 総会で支部奨励賞を受賞しました

医学部医学科5年生（微生物感染症学）水野 友貴

この度、第66回日本化学療法学会西日本支部総会で活性化委員会推薦演題に選出され、基礎部門で支部奨励賞を受賞することができました。演題名は「本邦医療機関にて分離されたポーリン変異を伴う新規CTX-M-207 β -ラクタマーゼ産生大腸菌の解析」です。今回の受賞に際しまして、日々ご指導をいただいている微生物感染症学講座の先生方に厚く御礼申し上げます。

11.16
~18

第61回日本感染症学会中日本学術集会で 学術奨励賞（基礎部門）を受賞しました

微生物感染症学 大学院生 鈴木 由希

平成30年11月16~18日に鹿児島で行われた第61回日本感染症学会中日本地方会学術集會におきまして、学術奨励賞（基礎部門）をいただきました。演題は「フィリピンの環境水から分離されたカルバペネマーゼ産生腸内細菌科の分子遺伝学的解析」です。薬剤耐性菌問題はヒトのみならず動物・自然環境を含め一体とした取り組みが重要ですが、今回は環境の耐性菌の実態について報告いたしました。受賞に際し、微生物感染症学講座の先生方、フィリピンの研究協力者等多くの方のご指導・ご協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。



Winner Report

11.21

三井住友海上福祉財団贈呈式で財団奨励賞を受賞しました

県民健康増進支援センター 特任准教授 富岡 公子

三井住友海上福祉財団は、交通安全等と高齢者福祉の二分野で、研究助成と著作・論文に対し贈呈する財団賞があります。この度、車谷先生にご推薦いただき Journal of the American Geriatrics Society に発表した論文 “Association Between Social Participation and 3-Year Change in Instrumental Activities of Daily Living in Community-Dwelling Elderly Adults” を応募致しました。財団賞には至りませんでした。今後の研究発展・深化が期待できるものとして財団奨励賞を頂くことが出来ました。今回の受賞に際しまして、ご指導頂きました細井先生、車谷先生に心より感謝すると共に、今後も健康長寿社会の実現に向けた研究活動を展開していく所存です。

11.25
~ 30

第104回北米放射線学会 (RSNA) で優秀賞を受賞しました

放射線医学 医員 南口 貴世介

この度、平成30年11月25日から30日に開催されました第104回北米放射線学会 (RSNA) の Education Exhibit において Cum Laude、および Certificate of Merit を受賞させて頂きました。演題名は「Diagnostic approach for gastric tumor, focusing on double contrast radiogram: correlation between the radiological findings with histopathological findings」, 「Typical and atypical manifestation of “schwannoma”: multimodality imaging and differential diagnosis」です。胃腫瘍や神経鞘腫といった日常臨床で比較的看着機会の多い疾患に対して、正確な診断および鑑別診断を絞る一助になればという思いで作成した演題です。

RSNA は世界最大の放射線関連の国際学会であり、このような賞を頂くことが出来たことを大変嬉しく思っています。また受賞に際しまして、ご指導頂きました伊藤先生・丸上先生に心より感謝申し上げます。



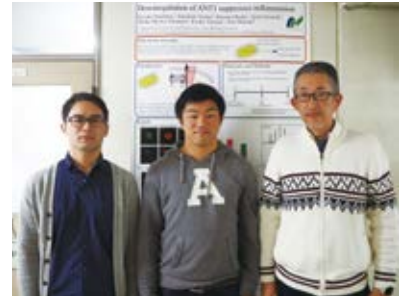
11.26

本学医学科6年生の中原さんが筆頭著者の論文がFEBS Lettersに掲載されました

医学部医学科6年 (解剖学第二講座) 中原 一貴

本学医学科6年の中原さんが筆頭著者となった論文が生化学分野の国際専門誌である「FEBS Letters」に掲載されました。本論文は中原さんが中心となって田中講師の下で行った研究です。ミトコンドリアのATP輸送に関わるタンパク質が炎症反応の一部を制御しているという内容で、本成果は知られていなかったミトコンドリアと炎症の関係の一端を明らかにしたものです。またこの研究成果は第41回日本分子生物学会のワークショップに採択され、11月30日に講演を行いました。

中原さんはラグビー部に所属し、日々部活に参加しつつ研究室に6年間通い本論文の完成に至りました。今後も研究活動を発展させてさらに活躍してくれることに期待します。



【掲載論文】

Kazuki Nakahara, Tatsuhide Tanaka, Hiroaki Okuda, Ayami Isonishi, Shoko

Morita-Takemura, Kouko Tatsumi, Akio Wanaka.

The inner mitochondrial membrane protein ANT1 modulates IL-6 expression via the JNK pathway in macrophages.

FEBS Lett. 2018 Nov; 592(22): 3750-3758.

11.28

平成30年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業助成者決定 (国際交流センター)

平成30年度(第2回)若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記の5名の方々に決定しました。

この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、10万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。

皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所属	職名	氏名
眼科学講座	講師	西 智
循環器内科学講座	医員	中田 康紀
放射線医学講座	医員	堀内 克俊
胸部・心臓血管外科学講座	助教	山下 慶悟
小児科学講座	大学院生	中島 由翔

11.30

平成30年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者が決定しました

平成30年度奈良県医師会学術奨励賞の受賞者に、本学から下記の3名の先生方の受賞が決定しました。

奈良県医師会学術奨励賞は、奈良県における若き医学徒の学術を奨励するために、奈良県医師会により贈呈される賞です。

平成30年11月30日に奈良県医師会館にて授与式が行われ、受賞された先生方には、賞状及び金一封が贈呈されました。

毎年4月頃に応募案内を配布しています。若手研究者の方々の積極的なご応募をお待ちしております。

受賞者	整形外科学	診療助教	塚本 真治
	精神医学	助教	盛本 翼
	胸部・心臓血管外科学	助教	山下 慶悟



整形外科学 塚本真治 診療助教



精神医学 盛本翼 助教



胸部・心臓血管外科学 山下慶悟 助教

12.8

第34回前立腺研究財団研究助成優秀課題賞を受賞しました

泌尿器科学 助教 三宅 牧人

このたび、前立腺研究財団研究助成『優秀課題賞』をいただき、平成30年12月8日第34回前立腺シンポジウムで成果報告を行いました。受賞課題は「日本人前立腺癌の発症に関連する前立腺内微生物の解析」であり、近年の腸内細菌叢と各種疾患との関連性を示した報告が多くなされていることから発想をえて、前立腺微生物叢と慢性炎症、発症に着目した研究です。マイコプラズマやヒト乳頭腫ウイルス（HPV）を前立腺組織から検出し、臨床的意義や臨床応用の可能性を検討しました。本研究の遂行にあたっては本学微生物感染症学講座の先生方をはじめ、多くの方々のご支援を賜りました。この場をお借りして御礼申し上げます。



12.15

西日本医学生学術フォーラム2018で受賞しました

平成30年12月15日に三重県津市で開催された西日本医学生学術フォーラム2018（三重大学主催）で本学の学生、坂口義彦さん、長田理瑚さん、米田朋矢さんが研究成果発表を行いました。

医学科4年 坂口 義彦（優秀口演発表賞）

酸化コレステロールによる尿酸トランスポーター発現制御機序に関する研究内容について発表しました。今回の西日本医学生学術フォーラムは学外での初めての発表でしたが、数多くの学びがありました。他校の発表のレベルは高く、普段なかなか受けることのない同年代からの刺激を受けることができました。また、自らの研究に対しての理解も発表に向けた準備の過程で相当深まったと思います。未来基礎医学教室・大学院生の松林成也さんには、実験と発表準備の過程で御指導を頂きました。今回頂いた賞に感謝し、これからも研究を進めていこうと思います。

医学科3年 長田 理瑚（最優秀ポスター発表賞）

この度は西日本医学生学術フォーラムに参加させていただき、また最優秀ポスター賞という賞をいただけたことに感謝しております。大会では、Low-complexity配列を有するポリペプチドがcross-βポリマーに結合するという研究内容について発表しました。学外での発表は初めてでしたが、自身の研究テーマに対する理解をさらに深めることができ良い経験となりました。未来基礎医学教室では以前より興味を持っていたテーマの研究活動に参加させていただいております。また、実験や発表準備で御指導頂いた脳神経内科学講座の先生方に深く御礼申し上げます。今後この研究成果を形にするためにさらに精進して参りたいと思います。

医学科2年 米田 朋矢（ポスター発表）

今回の医学生フォーラムでは、ヒト多能性幹細胞から短期間で骨分化誘導を行うことを目的とした研究成果について発表させて頂きました。準備を進め、また発表を通して研究成果を纏める重要性や発表の難しさを考えさせられました。一方で自分が何をしてきたかということや研究における目的や背景の重要性を学ばせて頂きました。また、同じように研究を行う医学生との議論・交流は非常に刺激になりました。今後もこのような学外での発表を目標としながら研究に励んでいきたいと存じます。御指導頂いた整形外科学講座の先生方に感謝申し上げます。



左から吉橋基礎教育部長、坂口さん、細井理事長・学長、長田さん、米田さん、未来基礎医学森特任講師

Winner Report

平成 30 年度 外部資金獲得状況

128 件 422,891,180 円 (間接経費を含む) (平成 30 年 12 月 15 日現在) ※文部科学省科学研究費助成事業を除く

(1) 厚生労働科学研究費補助金

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
認知症政策研究事業	看護学科 老年看護学	教授	澤見 一枝	外出が困難な認知症高齢者への AI を用いた介入手法の開発と、遠隔 AI 操作によるコミュニティづくりの研究
エイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	HIV 感染症を合併した血友病患者に対する全国的な医療提供体制に関する研究
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	教授	今村 知明	社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療職種間におけるタスク・シフティング等についての研究
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
認知症政策研究事業	麻酔科学	教授	川口 昌彦	外出が困難な認知症高齢者への AI を用いた介入手法の開発と、遠隔 AI 操作によるコミュニティづくりの研究	看護学科老年看護学 澤見 一枝
認知症政策研究事業	看護学科 老年看護学	助教	木村 満夫	外出が困難な認知症高齢者への AI を用いた介入手法の開発と、遠隔 AI 操作によるコミュニティづくりの研究	看護学科老年看護学 澤見 一枝
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	看護学科 公衆衛生看護学	講師	小松 雅代	社会構造の変化を反映し医療・介護分野の施策立案に効果的に活用し得る国際統計分類の開発に関する研究	公衆衛生学 今村 知明
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	循環器内科学	学内講師	添田 恒有	既存データベースの活用による虚血性心疾患・大動脈疾患診療の実態把握ならびに医療体制構築に向けた指標の確立のための研究	大阪大学 坂田 泰史
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	小規模な食品事業者における食品防御の推進のための研究	公衆衛生学 今村 知明
障害者政策総合研究事業 (精神障害分野)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	高次脳機能障害者の社会的行動障害による社会参加困難への対応に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター 中島 八十一
食品の安全確保推進研究事業 (カネミ油症に関する研究)	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	食品を介したダイオキシン類等の人体への影響の把握とその治療法の開発等に関する研究	九州大学 古江 増隆
新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業	感染症センター	准教授	笠原 敬	成人の侵襲性細菌感染症サーベイランスの構築に関する研究	国立感染症研究所 大石 和徳
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	重症多形発疹性紅斑に関する調査研究	島根大学 森田 栄伸
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	輸血部	教授	松本 雅則	血液凝固異常症等に関する研究	慶應義塾大学 村田 満
食品の安全確保推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	新たなバイオテクノロジーを用いて得られた食品の安全性確保とリスクコミュニケーションのための研究	国立医薬品食品衛生研究所・生化学部 近藤 一成
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	学内講師	岡本 左和子	医療職種間におけるタスク・シフティング等についての研究	公衆衛生学 今村 知明
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究	公衆衛生学 今村 知明
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	難病患者の福祉サービス活用による ADL 向上に関する研究	国立障害者リハビリテーションセンター病院 深津 玲子
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	特発性心筋症に関する調査研究	九州大学 筒井 裕之
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策総合研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	地域におけるかかりつけ医等を中心とした心不全の診療提供体制構築のための研究	公益財団法人 日本心臓血圧研究振興会 附属榑原記念病院 磯部 光章
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	ドクターヘリの適正利用および安全運航に関する研究	東海大学 猪口 貞樹
地域医療基盤開発推進研究事業	薬剤部	技師	池田 和之	医療安全に資する病院情報システムの機能を普及させるための施策に関する研究	大阪大学 松村 泰志
政策科学総合研究事業 (臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	電子カルテ情報をセマンティクス (意味・内容) の標準化により分析可能なデータに変換するための研究	国立循環器病研究センター 宮本 恵宏
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質の評価・公表と医療情報提供の推進に関する研究	聖路加国際大学 福井 次矢

難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	神経内科学	教授	杉江 和馬	スモンに関する調査研究	国立病院機構鈴鹿病院 小長谷 正明
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	難治性血管炎に関する調査研究	東京女子医科大学 針谷 正祥
地域医療基盤開発推進研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	救急医療体制の推進に関する研究	救急振興財団 山本 保博
難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	神経内科学	教授	杉江 和馬	希少難治性筋疾患に関する調査研究	東北大学 青木 正志
地域医療基盤開発推進研究事業	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	持続陽圧 (CPAP, ASV) 治療管理開始時からの治療状況確認と自己学習を含めた患者・医療機関相互方向の遠隔医療の試み	京都大学 陳 和夫
難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	栄養管理部	病院教授	吉川 雅則	難治性呼吸器疾患・肺高血圧症に関する調査研究	千葉大学 巽浩 一郎
政策科学総合研究事業 (政策科学推進研究事業)	公衆衛生学	講師	野田 龍也	患者調査等、各種基幹統計調査における NDB データの利用可能性に関する評価	京都大学 加藤 源太
難治性疾患等克服研究事業 (難治性疾患克服研究事業)	整形外科	病院教授	谷口 晃	早老症の医療水準や QOL 向上を目指す集学的研究	千葉大学 横手 幸太郎
地域医療基盤開発推進研究事業	麻酔科学	教授	川口 昌彦	麻酔科標榜資格を保持している医師の実態把握に関する研究	順天堂大学 稲田 英一
難治性疾患等政策研究事業 (免疫アレルギー疾患等政策研究事業 [免疫アレルギー疾患政策研究分野])	整形外科	教授	田中 康仁	糖尿病及び慢性腎不全による合併症足潰瘍・壊疽等の重症下肢虚血重症化の予防に関する実態調査	医療法人 社団 廣仁会 褥瘡・創傷治癒研究所 大浦 武彦
Eイズ対策政策研究事業	公衆衛生学	講師	野田 龍也	HIV 感染症における医療経済的分析と将来予測に資する研究	千葉大学 谷口 俊文
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	難治性聴覚障害に関する調査研究	信州大学 宇佐美 真一
難治性疾患等政策研究事業 (難治性疾患政策研究事業)	看護部	技師	久保 慎一郎	指定難病患者データベース、小児慢性特定疾病児童等データベースと他の行政データベースとの連携についての研究	公衆衛生学 野田 龍也

(2) 総務省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
IoT サービス創出支援事業	MBT 研究所	研究教授	梅田 智広	IoT × サテライト拠点による「生涯活躍」推進事業

(3) 経済産業省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的基盤技術高度化支援事業	放射線医学	講師	西尾福 英之	CT 検査時に医師の被ばくをなくし、患者体形に合わせた正確な検体採取とその場で細胞診断が出来るマイクロチップ搭載可能な多機能保持具の開発

(4) 農林水産省

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
農林水産政策科学研究委託事業		理事長・学長	細井 裕司	「大和漢方」の産地形成と薬用作物の園芸療法を通じた医学エビデンスにもとづく「農村医療観光」による6次産業の創出

(5) 国立研究開発法人日本医療研究開発機構 (AMED)

① 研究代表者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点)	公衆衛生学	准教授	赤羽 学	(シーズ A) 骨形成促進効果を持つ機能的生体材料の開発に関する基礎研究
橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点)	麻酔科学	助教	新城 武明	(シーズ A) 球海綿体反射モニタリングに対応する神経刺激電極付き尿道カテーテルの開発
橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点)	産婦人科学	教授	小林 浩	(シーズ A) 分子表面を覆うバンドエイド型ペプチドを用いた低分子医薬品の開発
橋渡し研究戦略的推進プログラム補助事業 (大阪大学拠点)	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	(シーズ A) 成体神経新生の理解に基づく脳血管障害の新規治療法の開発戦略
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発
戦略的国際脳科学研究推進プログラム (若手研究型)	未来基礎医学	特任講師	森 英一郎	筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発

② 研究分担者

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名	研究代表者
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	助教	早川 正樹	機械的補助循環に合併する後天性 von Willebrand 症候群の治療法の開発	輸血部 松本 雅則
革新的先端研究開発支援事業 (CREST)	物理学	講師	高木 拓明	一分子・質量イメージング顕微鏡の開発と細胞膜機能解析	大阪大学 上田 昌宏
革新的先端研究開発支援事業 (CREST)	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	機械受容応答を支える膜・糖鎖環境の解明と筋疾患治療への展開	神戸大学 金川 基
医薬品等規制調和・評価研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	官民共同による重篤副作用バイオマーカー開発	公益財団法人木原記念横浜生命科学振興財団 大野 泰雄
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	新生児・乳児に発症する特発性血栓症の病態解明および治療管理法と根治療法の確立に関する研究	九州大学 大賀 正一
	総合周産期母子医療センター	病院教授	西久保 敏也		

Winner Report

難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	植込型補助人工臓装着後の出血性合併症予知法および予防法の確立に関する研究	東北大学 齋木 佳克
難治性疾患実用化研究事業	小児科学	准教授	野上 恵嗣	特発性心臓症患者のゲノム情報を用いた層別化による病態解明研究	国立循環器病研究センター 辻 明宏
医薬品等規制調和・評価研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	さらなる適正使用に向けた、血液製剤の使用と輸血療法の実施に関する研究	名古屋大学 松下 正
長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業	精神科学	助教	松田 康裕	オリジナルソフトによる認知機能リハビリテーションと援助付き雇用を組み合わせた精神障害者の就労や職場定着の支援の効果の検証と普及方法の開発	国立精神・神経医療 研究センター 佐藤 さやか
長寿・障害総合研究事業障害者対策総合研究開発事業	精神科学	教授	岸本 年史	児童・思春期における心の健康発達・成長支援に関する研究	東邦大学 水野 雅文
感染症実用化研究事業肝炎等克服実用化研究事業肝炎等克服緊急対策研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	多施設共同研究による移植後肝炎ウイルス再発に対する標準的治療の確立	福岡医科大学 前原 喜彦
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	循環器内科学	講師	川上 利香	心不全の発症・重症化の高精度予測とそれに基づく最適な治療戦略の開発	九州大学 筒井 裕之
感染症実用化研究事業エイズ対策実用化研究事業	小児科学	教授	嶋 緑倫	HIV 関連病態としての血友病の根治を目指した次世代治療法・診断法の創出	自治医科大学 大森 司
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	非典型型溶血性尿毒症症候群 (aHUS) の複合的アプローチによる診断と治療向上に関する研究	東京大学 加藤 秀樹
ゲノム医療実現推進プラットフォーム事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	マルチオミックス連関による循環器疾患における次世代型精密医療の実現	東京大学 小室 一成
腎疾患実用化研究事業	腎臓内科学	教授	鶴屋 和彦	診療連携・国際連携を視野にいた、生活習慣病、CKDの診療の質向上に直結する多施設長期コホート研究	筑波大学 山縣 邦弘
感染症実用化研究事業エイズ対策実用化研究事業	健康管理センター	病院教授	古西 満	ART 早期化と長期化に伴う日和見感染症への対処に関する研究	国立国際医療研究センター 照屋 勝治
感染症実用化研究事業肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	次世代抗 B型肝炎ウイルス薬導出に向けた創薬研究	理化学研究所 小嶋 聡一
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	医療の質向上を目的とした臨床データベースの共通プラットフォームの構築	慶應義塾大学 宮田 裕章
難治性疾患実用化研究事業	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	拡張相肥大大型心筋症を対象とした多施設登録研究	九州大学 筒井 裕之
感染症実用化研究事業肝炎等克服実用化研究事業 B型肝炎創薬実用化等研究事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	B型肝炎ウイルス (HBV) 感染サイクル (生活環) で機能する宿主・ウイルス因子を標的とした新規抗 HBV 剤・HBV 感染制御法の開発	大阪大学 上田 啓次
循環器疾患・糖尿病等生活習慣病対策実用化研究事業	循環器内科学	学内講師	岡山 悟志	慢性心不全患者に対する多職種介入を伴う外来・在宅心臓リハビリテーションの臨床的効果と医療経済的効果を調べる研究	東京医科歯科大学 磯部 光章
女性の健康の包括的支援実用化研究事業 -Wise	産婦人科学	教授	小林 浩	多面的アプローチによる子宮内膜症、子宮筋腫の病態解明、および予防・治療法の開発	東京大学 大須賀 稔
橋渡し研究戦略的推進プログラム事業	生体分子不均衡制御学共同研究講座	教授 (共同研究講座)	永森 収志	がん特異的アミノ酸輸送体阻害作用を有する抗がん剤の臨床 POC 取得	大阪大学 竹原 徹郎
難治性疾患実用化研究事業	輸血部	教授	松本 雅則	高ずり応力を伴う循環器難病に随伴する出血性合併症予知法の開発	東北大学 加齢医学研究所 堀内 久徳
革新的がん医療実用化研究事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	講師	太田 一郎	HPV 関連中咽頭癌の治療最適化に関する研究	近畿大学 医学部奈良病院 家根 巨有
長寿・障害総合研究事業 障害者対策総合研究開発事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	慢性めまいの診断法確立とめまい指導の有用性に関する研究	聖マリアンナ医科大学 肥塚 泉
臨床研究・治験推進研究事業	眼科学	教授	緒方 奈保子	Brilliant Blue G250 による水晶体前囊可視化検討第 3 相多施設共同医師主導治験	九州大学 石橋 達朗
免疫アレルギー疾患等実用化研究事業	皮膚科学	教授	浅田 秀夫	新規分子標的薬による皮膚障害の調査および重症化予防の研究	横浜市立大学 相原 道子
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	NDB データによる理想的な健康医療ビッグデータ活用モデルの確立に関する研究	京都大学 黒田 知宏
革新的医療シーズ実用化研究事業	化学	教授	酒井 宏水	備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の臨床への橋渡し研究	旭川医科大学 東 寛
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	総合画像診断センター	病院教授	平井 都始子	人工知能の活用を見据えた超音波デジタル画像のナショナルデータベース構築基盤整備に関する研究	近畿大学 工藤 正俊
臨床研究等 ICT 基盤構築・人工知能実装研究事業	病理診断学	教授	大林 千穂	病理診断支援のための人工知能 (病理診断支援 AI) 開発と統合的「AI 医療画像知」の創出	一般社団法人日本病理学会 北川 昌伸
戦略的国際脳科学研究推進プログラム (若手研究型)	生体分子不均衡制御学共同研究講座	助教 (共同研究講座)	Wiriyaesemkul Pattama	筋萎縮性側索硬化症の病態発症に関連した毒性ポリペプチドに関する研究開発	未来基礎医学 森 英一朗

(6) 国立研究開発法人 科学技術振興機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
戦略的創造研究推進事業		理事長・学長	細井 裕司	空き家活用によるまちなか医療の展開とまちなみ景観の保全
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	第二内科学	准教授	山内 基雄	ストレスや疾病状況を把握するための連続的かつ非拘束呼吸・循環モニターの開発
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	麻酔科学	教授	川口 昌彦	五感を利用した Effective Medical Creation (EMC) の実践
研究成果展開事業 世界に誇る地域発研究開発・実証拠点 (リサーチコンプレックス) 推進プログラム	疫学・予防医学	教授	佐伯 圭吾	温度・光環境とサーガディアンリズムに関するコホート研究

戦略的創造研究推進事業	脳神経外科学	学内講師	田村 健太郎	脳表現空間インタラクション技術の創出
-------------	--------	------	--------	--------------------

(7) 独立行政法人 国際協力機構

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
開発途上国の社会・経済開発のための民間技術普及促進事業	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	教授	北原 紘	ベトナム国難聴者聴覚検査・診断器普及促進事業

(8) 公益財団法人全国競馬・畜産振興会

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業	公衆衛生学	教授	今村 知明	オリンピック・パラリンピック東京大会における食品テロ防止対策事業

(9) 名張市

研究事業名	所属	職名	氏名	研究課題名
伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業	脳神経外科学	教授	中瀬 裕之	伊賀・奥宇陀地域脳神経疾患医療体制整備に関する調査事業

(10) その他 財団法人等

団体名等	所属	職名	氏名	研究課題名
公益財団法人喫煙科学研究財団 (4年目)	免疫学	教授	伊藤 利洋	炎症性腸疾患動物実験モデルでの腸内細菌のメタゲノムならびに免疫学的解析とニコチン・喫煙による変化の検討
公益財団法人喫煙科学研究財団 (3年目)	解剖学第一	教授	西 真弓	妊娠中の受動喫煙が子供の摂食行動・嗜好性行動に及ぼす影響の分子基盤の解明
公益財団法人喫煙科学研究財団	精神医学	学内講師	紀本 創兵	摂食障害モデルマウスにおける能腸相関解析: $\alpha 7$ ニコチン性アセチルコリン受容体の役割
公益財団法人喫煙科学研究財団 (共同研究)	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	環器疾患における喫煙習慣と炎症の病態解明: 臨床および疫学による多面的研究
公益財団法人江頭ホスピタリティ事業振興財団	臨床研究センター	助教	鈴木 渉太	外国人患者が処方されたくすりを適正に使用することを旨としたメソッド「MOTENASHI」アプリ版の開発と調剤薬局における評価
ノバルティスファーマ株式会社	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	ヒト脳オルガノイドを用いた ALS/FTD の研究
ノバルティスファーマ株式会社	精神医学	学内講師	紀本 創兵	能腸相関からみた神経性無食欲症のサイクバイオティクス同定と新規治療法の創発にむけて
ノバルティスファーマ株式会社	脳神経内科学	教授	杉江 和馬	「自己食空胞性ミオパチー」におけるオートファジー分子機構に関する臨床病理学的解析
ノバルティスファーマ株式会社	脳神経内科学	助教	江浦 信之	オートファジー異常を呈する炎症性筋疾患の臨床病理学的検討
ノバルティスファーマ株式会社	皮膚科学	講師	宮川 史	炎症性単球の役割からみた全身性エリテマトーデスの病態解明
ノバルティスファーマ株式会社	循環器内科学	教授	斎藤 能彦	新規 Long Noncoding RNA を介した新たな心腎連関の分子機序の解明
ノバルティスファーマ株式会社	循環器内科学	講師	川上 利香	医療の質の向上を目指した急性非代償性心不全の詳細実態調査に関する研究
ノバルティスファーマ株式会社	循環器内科学	学内講師	尾上 健児	たこつば症候群発症メカニズムの解明
ノバルティスファーマ株式会社	眼科学	教授	緒方 奈保子	加齢黄斑変性の発症機序と病態の解明
ノバルティスファーマ株式会社	眼科学	学内講師	吉川 匡宣	早期緑内障と生体リズムに関する大規模コホート研究
ノバルティスファーマ株式会社	輸血部	教授	松本 雅則	血液中の止血因子 von Willebrand 因子による加齢黄斑変性症の病態解析と治療効果の検討
一般社団法人 日本医療経営実践協会	公衆衛生学	大学院生	中西 康裕	指定課題 「医師・看護師等の働き方改革」
公益財団法人武田科学振興財団	解剖学第二	講師	田中 達英	順遺伝学的スクリーニングによる新たな疼痛制御因子の同定
公益財団法人武田科学振興財団	脳神経内科学	助教	松井 健	ヒト脳オルガノイドを用いた Mowat-Wilson 症候群の病態解明
公益財団法人武田科学振興財団	疫学・予防医学	准教授	大林 賢治	メラトニン分泌量が疾病発症に及ぼす影響: 大規模コホート研究における検証
公益財団法人日本応用酵素協会 (3年目)	腎臓内科学	博士研究員	松井 勝	慢性腎臓病における可溶性 Flt-1 による動脈硬化症抑制機序に関する検討
公益財団法人日本応用酵素協会	循環器内科学	医員	中田 康紀	心腎連関に関わる PIGF と sFlt-1 の臨床的意義およびその機序の解明
公益財団法人日本応用酵素協会 (2年目)	循環器内科学	診療助教	仲川 仁	ANP 系のミネラルコルチコイド受容体抑制機序の解明
公益財団法人大阪難病研究財団	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	医員	北野 公一	耳鳴発生における内耳細胞内分子動態の解析
LivaNova Donations & Grants Program 2018	脳神経外科学	学内講師	田村 健太郎	Is it feasible to estimate epileptic focus with the changing of sevoflurane concentration and high-frequency oscillation in intraoperative electrocorticogram?
NPO 法人日本小児禁煙研究会	公衆衛生看護学	准教授	坂東 春美	わが国の学童期における家庭内 Second-Hand Smoke に関する時系列分析
公益財団法人持田記念医学薬学振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	ヒト脳オルガノイドを用いた Mowat-Wilson 症候群の病態解明
公益財団法人 MSD 生命科学財団 (1年目)	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	Desmin 異常による心筋症の生化学的研究
公益財団法人黒住医学研究振興財団	中央手術部	助教	高谷 恒範	脳波周波数スペクトル解析と心拍変動による自律神経解析の検査統合法の開発とその臨床応用
公益財団法人上原記念生命科学財団 (リサーチフェロシップ)	整形外科	博士研究員	大西 正展	ラット骨髄間葉系幹細胞を利用した再生医療
公益財団法人内藤記念科学振興財団	精神医学	講師	牧之段 学	経頭蓋直流電流による前頭前野刺激効果の機序解明とモチベーションの創生
公益財団法人内藤記念科学振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	中間径フィラメント形成異常による Desmin ミオパチーの病態解明
一般社団法人 日本血液学会	小児科学	講師	武山 雅博	第 VIII 因子 A3 ドメイン上の新規第 IXa 因子結合部位の同定
公益財団法人 先進医薬研究振興財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	C9orf72 遺伝子のリピート異常による前頭側頭型認知症の研究
公益財団法人テルモ生命科学芸術財団	未来基礎医学	特任講師	森 英一朗	ミクログリアを持つヒト脳オルガノイドの構築
公益財団法人神澤医学研究振興財団	産婦人科学	助教	赤坂 珠理晃	羊水塞栓症補助診断マーカーとしての血清 SCCA の有用性の解明

公開講座情報

ウイルス肝炎研究財団 市民公開講座 2018

開催日：平成31年2月3日(日) 14:00～16:00
場所：橿原文化会館 小ホール
概要：名医に聞く肝臓のお話
講演者：総合司会：内科学第三講座 吉治仁志 教授
対象：県民・医療従事者
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：内科学第三講座 TEL 0744-22-3051
 E-mail 3naika@naramed-u.ac.jp

平成30年度後期公開講座「くらしと医学」

開催日：平成31年2月16日(土) 13:00～15:30
場所：奈良県文化会館 国際ホール
概要：「孤独死の状況を考える」～法医学の視点から～
講演者：法医学講座 羽竹勝彦 教授 他
対象：県民
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：総務課(県民健康増進支援センター)
 TEL 0744-22-3051(内線2297)

第14回地域医療連携懇話会

開催日：平成31年2月23日(土) 14:00～16:00
場所：橿原文化会館 小ホール
概要：「災害時における医療機関の連携」
講演者：兵庫県災害医療センター 川瀬鉄典 副センター長、
 本学総合医療学講座 西尾健治 教授 他
対象：医療従事者
備考：事前申込必要 参加無料
問合せ先：地域医療連携室 TEL 0744-29-8022
 E-mail c-office@naramed-u.ac.jp

平成30年度県民公開講座「女性のための健康講座」

開催日：平成31年3月3日(日) 14:00～16:00
場所：学園前ホール
概要：「女性の健康最前線」
 ～人生100年時代に知っておくべきこと～
対象：県民
備考：事前申込必要(当日参加可) 参加無料
問合せ先：奈良県産婦人科医会公開講座係
 TEL 0744-22-8502
 FAX 0744-23-7796

平成30年度地域医療研究会講演会 ～地域の救急搬送状況の改善と今後の課題～

開催日：平成31年3月13日(水) 18:00～
場所：奈良医大 臨床研修センター1階
 カンファレンス室(予定)
概要：「救急医療の視点」 他
講演者：救急医学講座 福島英賢 教授 他
対象：県民
備考：事前申込必要(当日参加可) 参加無料
問合せ先：地域医療学講座 TEL 0744-23-9959
 E-mail tiiryoun@naramed-u.ac.jp

臨床研究市民公開講座 「市民とともに創る未来の医療」

開催日：平成31年3月16日(土) 13:00～15:00
場所：橿原文化会館 小ホール
概要：「日常における予防医学と病気のサイン」
講演者：臨床研究センター 笠原正登 センター長 他
対象：県民
備考：事前申込不要 参加無料
問合せ先：臨床研究センター
 TEL 0744-22-3051(内線:5288)
 E-mail tk-inoue@naramed-u.ac.jp

第83回日本循環器学会市民公開講座

開催日：平成31年3月24日(日) 13:00～15:30(予定)
場所：はまぎんホール ヴィアマーレ(横浜みなとみらい)
概要：心臓病を予防して健康長寿(仮)
講演者：座長 循環器内科学講座 斎藤能彦 教授 他
対象：県民
問合せ先：循環器内科
 TEL 0744-22-3051(内線:3411)

日本高血圧協会 高血圧市民公開講座

開催日：平成31年5月18日(土) 14:00～(予定)
場所：奈良県文化会館
講演者：座長 循環器内科学講座 斎藤能彦 教授 他
対象：県民
問合せ先：循環器内科
 TEL 0744-22-3051(内線:3411)

寄附者ご芳名

「未来への飛躍基金」にご協力いただきありがとうございました

基金創設以来、平成30年12月までに累計2,408件のご寄附をいただいております。

なお、今号では、平成30年10月～12月にお申し込みいただいた方のご芳名を掲載させていただきます。

平成30年9月以前にご寄附いただいた方のご芳名については、本学「未来への飛躍基金」HP (<http://www.naramed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>)に掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

秋田 雅弘 様	井上健次郎 様	大植 睦 様	大鶴 昇 様
大西 英之 様	五島 淳 様	齊藤 正幸 様	高比 康臣 様
高見 武志 様	中野 太右 様		

掲載を希望されないご寄附者様 4名

◆30万円以上100万円未満

油谷令尹子 様	伊藤 和男 様	伊藤 高広 様	井上 毅 様
井上 聡己 様	上嶋 昌和 様	上田 和孝 様	植田 充治 様
上塚 弘 様	浦元 弘樹 様	大手 信重 様	小川 淳司 様
桂田かおり 様	鎌田勝三郎 様	鎌田喜太郎 様	亀田 陽一 様
河村 健二 様	紀川 伊克 様	吉川 公彦 様	熊田 幸江 様
公文 啓二 様	桑原 理充 様	小林 浩 様	小味 克巳 様
齊藤 弥穂 様	齊藤 守重 様	斎藤 能彦 様	阪口 晃行 様
坂口 泰弘 様	櫻井 立良 様	澤井 利夫 様	杉江 和馬 様
杉村 正仁 様	杉本 潤 様	鈴木 秀夫 様	鈴木 裕 様
高倉 義典 様	田川 美穂 様	竹川 隆 様	田中 利洋 様
田中 宣道 様	田畑 尚一 様	田伏 守 様	土肥 和紘 様
中井 紀雄 様	中田 浩二 様	中谷 晃 様	仲野 康豊 様
中西 善久 様	西尾 健治 様	西崎 和彦 様	野上 恵太 様
野中 秀郎 様	橋本 俊雄 様	長谷川正俊 様	畠山 金太 様
久永 學 様	廣田さち子 様	藤村 吉博 様	藤本 眞一 様
朴 永銖 様	星田 徹 様	堀江安永子 様	本田 伸行 様
三上 洋 様	水本 茂 様	水本 保子 様	村田 省吾 様
森下 亨 様	森藤 哲章 様	森本 勝彦 様	山中 敏彰 様
山内 昌孝 様	山吉 滋 様	吉岡 章 様	吉川 雅則 様
吉村 均 様	米田 龍生 様	米山 恵嗣 様	

掲載を希望されないご寄附者様 22名

◆10万円以上30万円未満

青木 誠 様	青木 保恵 様	赤羽たけみ 様	秋岡 勝哉 様
五十嵐稔子 様	池田 直也 様	生駒 一憲 様	石崎 幸子 様
石澤美保子 様	泉 哲石 様	市川 寛 様	市橋 成夫 様
伊藤 利洋 様	稲垣 有佐 様	岩田栄一郎 様	上田 耕司 様
上西 浩子 様	上平 悦子 様	植村 信子 様	鶴山 秀人 様
瓜園 泰之 様	榎本 泰久 様	大川 晋一 様	大村 素子 様
緒方 正雄 様	岡本 英之 様	小川 浩平 様	荻田 恭也 様
奥山 節彦 様	榎林 義雄 様	粕田 承吾 様	神谷 達 様
川口 昌彦 様	川手 健次 様	北原 紘 様	北村 弥 様
切石礼次郎 様	小味智淵 様	齊藤 謙介 様	斎藤 宏史 様
佐伯 圭吾 様	坂本 一喜 様	島屋 正孝 様	清水 啓敏 様
杉江 美穂 様	杉本 靖 様	鈴木 順三 様	住田 淳子 様
陳 寒達 様	塚田 周平 様	寺井 太一 様	富田 哲男 様
内藤 宏昌 様	長尾喜八郎 様	中川 仁 様	仲川 喜之 様
中島 隆介 様	永野 龍生 様	二階堂雄次 様	乃田 一也 様
長谷川英雄 様	畠 生也 様	八田 告 様	日野 晃治 様
福原 昌夫 様	北東 大督 様	細川 洋治 様	堀 謙輔 様
堀内 俊孝 様	堀川 巳清 様	榎田 義英 様	松井 一哲 様
松田 良介 様	松本 寛史 様	丸山 直樹 様	三橋 二良 様
光山 孝慶 様	南 淳子 様	八木 正躬 様	山川 博文 様
山田千賀子 様	山田 秀樹 様	山本 清誠 様	吉川 高宏 様
吉栖 正典 様	吉村 隆司 様	吉本 雅俊 様	米澤 泰司 様
若月 幸平 様	和田 誠 様		

掲載を希望されないご寄附者様 50名

◆10万円未満

井内 清美 様	市川 澄子 様	伊藤 直 様	伊藤 妙子 様
井上 隆 様	岩井 紗希 様	岩佐 直毅 様	植松 聡 様
エルファンディ スフィアン 様		大串 始 様	大古 美香 様
小川 宗宏 様	角谷 勇一 様	狩山 純子 様	狩山 壽枝 様
河野 悌司 様	北村 華奈 様	北村 紀文 様	北村 久子 様
北村 里奈 様	木村 茂和 様	倉田 嘉浩 様	小林 恭代 様
小原 孝清 様	小山 文一 様	近藤 秀明 様	近藤 雅彦 様
齊藤 夏彦 様	神 徳子 様	阪田 聖基 様	左官 弘和 様
佐藤 慎哉 様	佐藤 林平 様	佐野 正治 様	階戸 精一 様
下里 直隆 様	田岡 俊昭 様	武田以知郎 様	竹中 要一 様
田中 幸博 様	谷 直子 様	富江 英正 様	富田 直秀 様
内藤希実子 様	中村 広太 様	西浦 弘 様	西澤 秀美 様
西村 忠己 様	野瀬 和宏 様	橋本 明美 様	橋本 英雄 様
濱田 薫 様	福岡 篤彦 様	水野 香織 様	森本 安彦 様
守屋 圭 様	諸井慶七郎 様	保田健太郎 様	矢野富士夫 様
山尾 洋成 様	山下 昌宏 様	山田理紗子 様	吉峰 正 様

掲載を希望されないご寄附者様 80名

◆金額の公表を希望されないご寄附者様

青木 郁樹 様	荒木 正史 様	石田由佳子 様	梅垣 修三 様
江浦 信之 様	江川 琢也 様	應田 義雄 様	太田 一郎 様
大西 正展 様	大庭 直樹 様	岡嶋 克則 様	岡島純一郎 様
奥田 浩嗣 様	小谷 了一 様	面川 庄平 様	勝山 慶之 様
葛城 正巳 様	金廣 昭美 様	鴨川 郷 様	鴨川 秀子 様
川端 千晶 様	北田 力 様	桐山 敬生 様	久代 英範 様
工藤 利彰 様	熊澤 昌洋 様	黒川紳一郎 様	阪井 利幸 様
笹原 一裕 様	潮見 満雄 様	塩谷 直久 様	芝野 匡志 様
正武 孝規 様	白江 伸宏 様	杉山 友悦 様	酢谷 俊夫 様
洲脇 直己 様	高橋 美雪 様	田中 祥介 様	土田 容子 様
友田 昭二 様	中井 敏幸 様	中井 尚子 様	中井 秀典 様
中川 順夫 様	中込 将弘 様	中野 利夫 様	西前 義典 様
西村 幸洋 様	羽竹 勝彦 様	畠中 利英 様	東野 正 様
藤本 隆 様	堀江 恭二 様	鞠子 眞濟 様	三浦 幸子 様
三上 貞昭 様	源 誠二郎 様	宮川 史 様	三宅 邦仁 様
森谷 季吉 様	敷本 明広 様	山田 薫 様	山中富美男 様
勇井 克也 様	横田 雅子 様	吉川真由美 様	

【法人・企業】

◆1000万円以上

社会医療法人 高清水 高井病院 様

◆100万円以上1,000万円未満

奈良県立医科大学内科学第三講座同門会 様

掲載を希望されないご寄附者様 1法人

◆10万円以上50万円未満

医療法人 桜翔会 中辻医院 様

医療法人 長尾会・ねや川サナトリウム 様

公立大学法人奈良県立医科大学労働組合 様

有限会社 但馬屋 様

◆10万円未満

医療法人 桐山医院 様

(五十音順)

Media Listing Information

メディア掲載情報をお寄せください～学報紙面で紹介します～

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生をこの「学報」紙面で紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
10月2日	日経デジタルヘルス	理事長・学長 細井 裕司	医学を基礎とするまちづくり、「急速な進展」と自負「MBTの国家プロジェクト化」について
10月2日	毎日新聞	MBT 研究所 研究教授 梅田 智広	県立医大研究教授が会社設立、健康データをラインで家族に、IT活用 高齢者見守りについて
10月15日	奈良テレビ「ゆうドキッ」	皮膚科 教授 浅田 秀夫	アトピー性皮膚炎についてコメント
10月15日	産経新聞	公衆衛生学 教授 今村 知明	フグの調理資格に関してコメント
10月16日	毎日新聞	MBT 研究所	県立医科大が進める MBT、医学基礎にまちづくり企業や自治体技術の出し合いについて
10月23日	日経デジタルヘルス	MBT 研究所 研究教授 梅田 智広	生まれたての奈良医大発ベンチャー「MBT リンク」初講演について
10月24日	日本経済新聞（電子版）日経産業新聞	化学 教授 酒井 宏水	2年間備蓄可能な人工赤血球の開発について
11月1日	ウェブサイト（e-Thoth: 医師向け会員制情報提供サイト）	産婦人科 助教 棚瀬 康仁	FUSE 資格取得までの経緯と電気メスの正しい使用法についてインタビュー
11月2日	NHK 総合「NHK ニュース関西版」「ニュースほっと関西」「ならナビ」	理事長・学長 細井 裕司 産婦人科 教授 小林 浩	LINE を活用し、妊婦の悩み相談で官民医が連携することについて放映
2018年 11月4日	朝日新聞	法医学 教授 羽竹 勝彦	用水路での死亡発見事例についてのコメント
11月6日	ウェブサイト（CBnews マネジメント）	MBT 研究所 研究教授 梅田 智広	株式会社を設立し、研究の成果を量産化して普及へ。奈良医大の「まちづくり」取り組みについて
11月6日	ラジオ大阪「高岡美樹のべっぴんラジオ」	内科学第三 教授 吉治 仁志	C型肝炎について病気や新しい治療法をテーマに対談
11月7日	日本経済新聞	MBT 研究所 研究教授 梅田 智広	体調×気温・湿度 IoT 解析、健康指南 スマホや音声で医療の知見を街に生かすことについて
11月10日	奈良テレビ「県民だより奈良 ならいいね!」	糖尿病学 教授 石井 均	糖尿病についてコメント
11月28日	奈良新聞	MBT 研究所	11月27日 三井住友銀行本店「MBT オープンミーティング 2018in 東京」について
11月28日	日経産業新聞	MBT 研究所 研究教授 梅田 智広	奈良医大は IT スタートアップを通じ、年内に健康管理を支援するサービスの提供をすることについて
12月4日	奈良テレビ「ゆうドキッ」	内科学第三 講師 赤羽 たけみ	12月8,9日に開催の奈良マラソンイベント会場で実施する肝炎啓発活動について紹介
12月9日	奈良マラソン会場	内科学第三 教授 吉治 仁志	「なるほど肝炎!!」@奈良マラソン PART II と題してお笑い芸人間寛平氏とのスペシャルトーク

編集後記

皆様からのご協力をいただき第 67 号学報を発行する事ができました。ご協力・ご支援頂いた皆様に深く感謝いたします。「学報」では、職員の皆さんからの記事を随時募集しております。是非広報室までご連絡ください。



思いをカタチにする住まいづくり
HOUSING LAB
お得な住まいの
広告

協定特典

※割引率・内容は、協定会社によって異なります。

新築建替

建物本体価格より

3% 割引

リフォーム

工事見積金額より

3% 割引

不動産媒介

仲介手数料より

15% 割引

分譲住宅

販売価格より

0.5%~3% 割引

さらに 組合を通じてのご成約で完工時に **ステキなプレゼントも!**

住宅企業まほろば会 協定会社 11 社

旭化成ホームズ/イムラ/住友林業/セイキョウホーム近畿/セキスイハイム近畿/積水ハウス/大和ハウス工業/パナソニック ホームズ/ミサワホーム近畿/三井ホーム/ヤマダ・エスバイエルホーム

労働組合HP内の **HOUSING LAB** もぜひご覧ください!

CLICK!

HOUSING LAB

お気軽にお問い合わせ下さい

奈良県立医科大学労働組合

0744-22-3051 (代) (内線: 2222)

モデルハウス(展示場)へ行く前に各労働組合へご相談ください またはモデルハウス(展示場)にご来場時に、組合員証か紹介カードをご提示ください。

このページに広告を掲載しませんか? くわしくはこちら

→ <http://www.narmed-u.ac.jp/university/gaiyo/shokai/gakuho/index.html>

学報バックナンバーは web サイト上でもご覧いただけます。(<http://www.narmed-u.ac.jp/info/introduction/magazine.html>)